

マークをクリックするとそのページを見ることができます



発生動向総覧  
P.2-3

<23週> 九州地方で手足口病の定点当たり報告数が多くなっている /  
その他最新動向



注目すべき感染症  
P.4

<手足口病流行状況> 手足口病の流行に伴う無菌性髄膜炎患者報告数の増加 熊本県  
<麻疹流行状況> 第23週の報告患者総数は760で、定点当たり報告数は0.3



病原体情報  
P.5

患者から分離されたウイルス検出報告 手足口病 / 咽頭結膜熱 / 流行性角結膜炎 / 感染性胃腸炎・ロタウイルスおよびSRSV



IASRからの速報  
P.6

手足口病・無菌性髄膜炎患者からのエンテロウイルス71型の分離  
熊本県



海外感染症情報  
P.7

ブラジルにおけるシャガス病の現状 / 他



感染症の話  
P.8-13

エイズ(ヒト後天性免疫不全症候群)後編  
臨床症状、診断、治療・予防、HIV感染  
やエイズ発症抵抗性の遺伝的背景など



読者のコーナー  
P.14



グラフ総覧(23週)  
P.15-21



23週のデータ  
P.22-29



# 発生動向総覧

第23週コメント 6月16日集計分

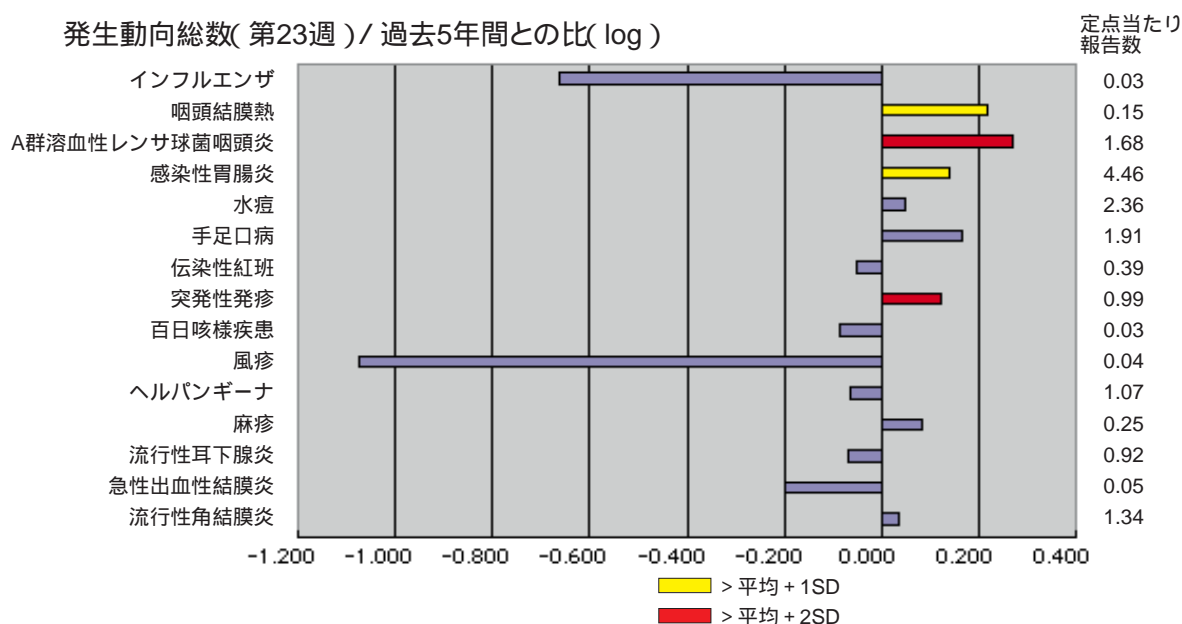
## 全数報告の感染症

- 1類感染症: 報告なし
- 2類感染症: 細菌性赤痢4例( 推定感染地: インドネシア1例、スペイン1例、ベトナム1例、不明1例 )  
腸チフス2例( 推定感染地: 国内1例、不明1例、ただし国内の1例は疑似症 )
- 3類感染症: 腸管出血性大腸菌感染症58例
- 4類感染症: アメーバ赤痢5例
  - 急性ウイルス性肝炎14例 A型9例\_\_推定感染地: 国内7例、フィリピン1例、ベトナム1例
  - B型4例\_\_うち性行為感染1例
  - C型1例\_\_感染経路不明
- 後天性免疫不全症候群5例( AIDS3例、無症候性キャリア2例 ) ジアルジア症2例、ツツガムシ病17例、デング熱2例( 推定感染地: インド1例、ラオス1例 )
- 日本紅斑熱1例、破傷風3例、VRE1例( vanC型 )、レジオネラ症1例、梅毒6例( 早期顕性1例、晩期顕性0例、無症状5例、先天性梅毒0例 )

## 定点把握の対象となる4類感染症( 週報対象のもの )

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数が例年の同時期よりかなり多く、過去10年間で最大の流行曲線を描いている( 15ページグラフ総覧、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎参照 )。患者の年齢階級別で見ると、3歳から7歳の小児が全体の73%を占め、ピークは4～6歳にある。咽頭結膜熱、感染性胃腸炎は例年の同時期に比べ定点当たり報告数がやや多くなっている。手足口病は熊本県をはじめ、九州地方で定点当たり報告数が多くなっており、熊本県で20.4、佐賀県で13.7、福岡県と鹿児島県で6.3となっている。そのほか、群馬県、奈良県、山形県、和歌山県などでも定点当たり報告数が多くなっている( 4ページ注目すべき感染症参照、手足口病の病原体については5ページ病原体情報参照 )。麻疹は依然大阪府、千葉県などで流行が見られる。流行性角結膜炎は茨城県で定点当たり報告数が4.5と多い。

発生動向総数( 第23週 ) / 過去5年間との比( log )

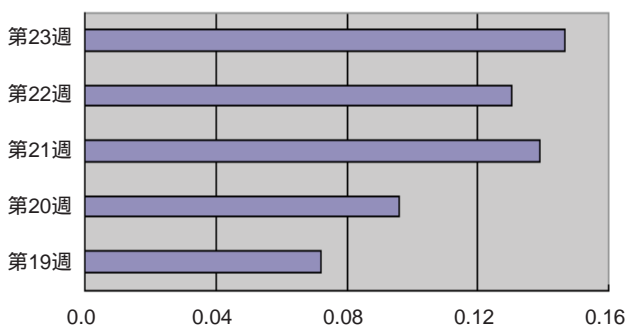


当該週と過去5年間の平均( 過去5年間の前週、当該週、後週の合計15週の平均 ) の比を対数にてグラフ上に表現した。1標準偏差を超えた場合黄で、2標準偏差を超えた場合赤で色分けしている。

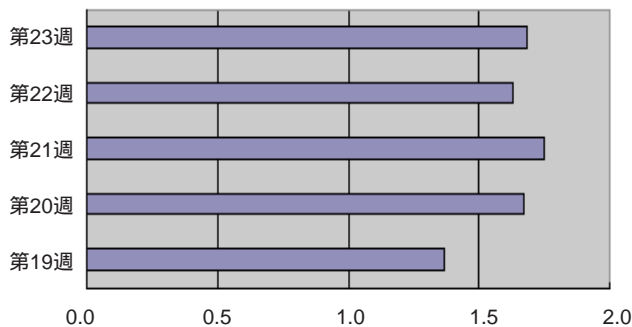
## 最近の注目疾患-5週間の動き

咽頭結膜熱は前週より定点当たり報告数が多くなっており、患者報告数は増加傾向にある。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、流行性角結膜炎の定点当たり報告数はこのところほぼ横ばいとなっている。麻疹の点当たり報告数は、第19週をピークに緩やかに減少傾向をみせている。水痘も前週の定点報告数を下回り、患者報告数は減少傾向にある。

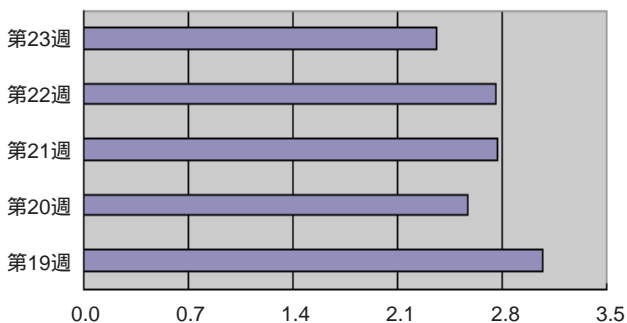
咽頭結膜熱



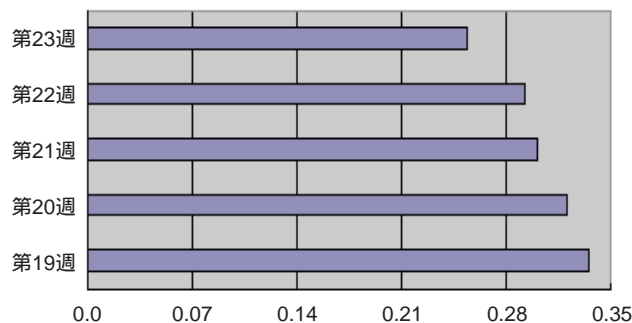
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



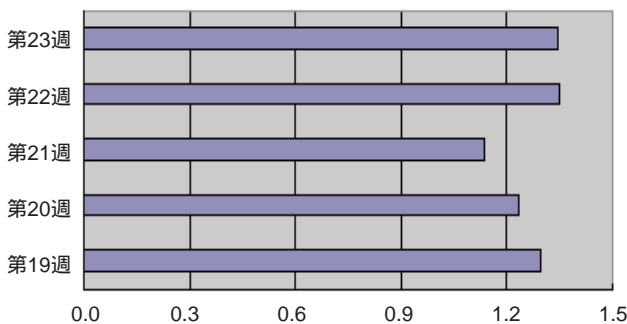
水痘



麻疹



流行性角結膜炎



(注) グラフの横軸は各疾患の定点当たり報告数( 報告総数/定点総数 )を表す。疾患によって目盛りのスケールが違うことに注意。



# 注目すべき感染症

## 手足口病流行状況

手足口病は夏季に幼児を中心に流行する急性ウイルス性感染症で、患者の半数は2歳以下である。病名どおり、臨床症状は口腔粘膜及び四肢末端の水疱性発疹が特徴的で診断は容易である。主な病原ウイルスは、エンテロウイルスであるコクサッキーA16型( CA16 )、エンテロウイルス71型( EV71 )、コクサッキーA10型( CA10 )であり、毎年これらのウイルスによる流行が大なり小なりみられている。過去10年間では、1990年、1995年に比較的大きな流行が観測され、主な分離ウイルスは、'90年がEV71とCA16がほぼ同じ割合、'95年はCA16であった。

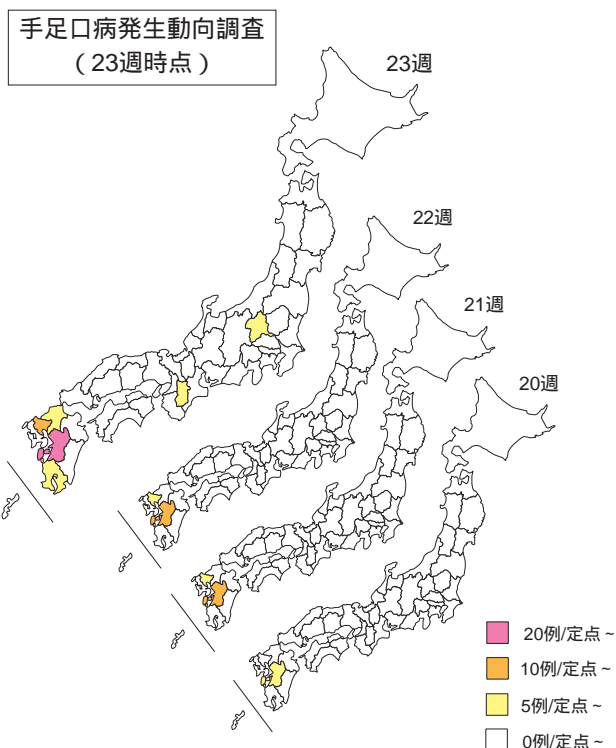
2000年は第13週ごろより流行曲線が立ち上がり始め、第20、21週と患者報告数が急増した。流行の大きかった'90年、'95年の流行曲線も第19週頃より急速に立ち上がっており、今年の流行曲線も現在のところこれらの流行年に見られたパターンに近く、今後疾患の動向に注意が必要である。

第23週( 6月5日 ~ 6月11日 )の、全国定点医療機関からの手足口病報告患者総数は5,704で、定点当たり報告数は1.9であった。定点当たり報告数が多いのは、熊本県( 定点当たり報告数 20.4 )、佐賀県( 13.7 )、群馬県( 6.5 )、奈良県( 6.4 )、鹿児島県( 6.3 )、山形県( 4.0 )、和歌山県( 3.9 )などである。

熊本県では手足口病の流行に伴って無菌性髄膜炎患者の報告が多くなっており、第23週の全国の無菌性髄膜炎患者報告総数は54で、そのうち17例が熊本県からの報告であった。

病原体報告によると、無菌性髄膜炎から分離されたウイルスは第23週ではEV71が最も多く10件であった。また、病原体検出情報事務局に入った情報によると、熊本県の手足口病患者及び無菌性髄膜炎患者からEV71が分離されているとい( 6ページIASRからの速報参照 )。一方、奈良県、山形県の手足口病からはコクサッキーウイルスA16型が分離されている( 5ページ病原体情報参照 )。

手足口病は通常予後良好な疾患であるが、EV71は他のウイルスより中枢神経系の合併症の発症率が高いことが知られている。



## 麻疹流行状況

2000年第23週( 6月5日 ~ 6月11日 )の、全国定点医療機関からの麻疹報告患者総数は760で、定点当たり報告数は0.3であった。2000年第1週から第23週までの累積患者数は12,145、成人麻疹累積患者数は195となっている。都道府県別では、大阪府、千葉県などで患者報告数が多くなっている。



# 病原体情報

## 手足口病患者から分離されたウイルス

2000年( 2000年6月16日現在報告分 )

コクサッキーウイルスA16型が大阪市から1件( 第10週 )、山形県から7件( 第16週 : 1件、19週 : 3件、20週 : 3件 )と奈良県から2件( 第18、20週 )、エンテロウイルス71型が神奈川県から2件( 第4、6週 )、大阪府から2件( 第6、9週 )、熊本県から2件( 第13、14週 )、福岡市から1件( 第14週 )、北九州市から1件( 第18週 )の分離報告があった。

## 咽頭結膜熱患者から分離されたウイルス

2000年( 2000年6月16日現在報告分 )

アデノウイルス1型が川崎市と長野県( 第8週 )、新潟県( 第14週 )、大阪府( 第20週 )からそれぞれ1件、2型は長野県( 第2週 )、広島市( 第8週 )、大阪府( 第20週 )から各1件、3型は大阪府( 第3週 )と広島市( 第16週 )からそれぞれ1件、4型は新潟県( 第5週 )から1件の分離報告があった。

## 流行性角結膜炎患者から分離されたウイルス

2000年( 2000年6月16日報告分 )

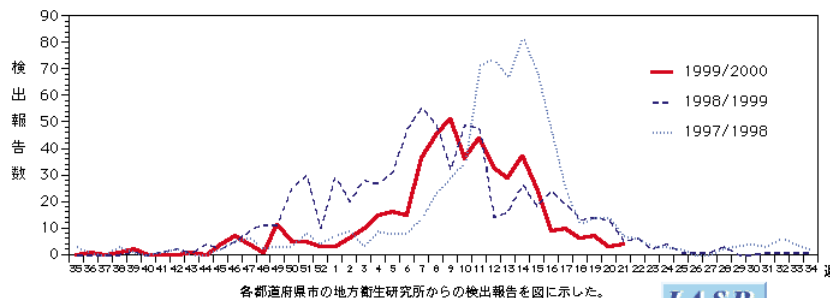
岡山県からアデノウイルス4型が2件( 第2、5週 )とアデノウイルス37型が1件( 第5週 )、神奈川県( 第2週 )と川崎市( 第5週 )からアデノウイルス19型が各1件、川崎市からアデノウイルス2型が1件( 第16週 )、香川県からアデノウイルス3型が1件( 第14週 )、札幌市からアデノウイルス8型が1件( 第18週 )の分離報告があった。

## 感染性胃腸炎 1999/2000シーズン\* ロタウイルスおよびSRSV 検出報告( 2000年6月16日現在報告分 )

今シーズンのロタウイルスは第9週をピークにして検出され、報告総数は485件で、5月以降には岩手県、新潟県、川崎市、奈良県、大阪市、愛媛県、北九州市、福岡市からの検出報告があった。今シーズンのSRSV検出総数は646件で、検出報告数は1999年第50週をピークに減少してきたが、第11～12週をピークに再びわずかな増加がみられた。

\*1999/2000シーズンは1999年第35週( 8/29-9/4 )から。

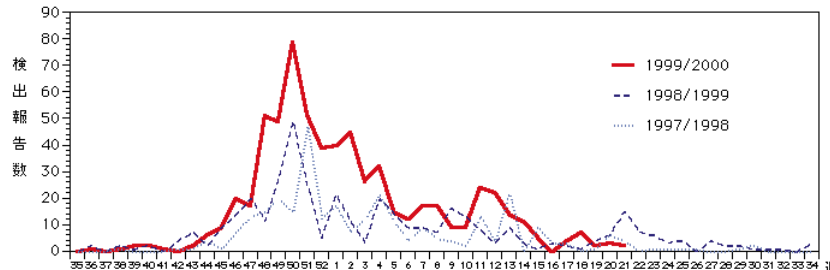
週別ロタウイルスの検出報告数、シーズン別比較 (1997/1998、1998/1999、1999/2000)  
(病原微生物検出情報 : 2000年6月16日現在報告数)



**IASR**

Infectious Agents Surveillance Report

週別SRSVの検出報告数、シーズン別比較 (1997/1998、1998/1999、1999/2000)  
(病原微生物検出情報 : 2000年6月16日現在報告数)



**IASR**

Infectious Agents Surveillance Report

**手足口病・無菌性髄膜炎患者からのエンテロウイルス71型の分離 - 熊本県**

熊本県において、3月下旬( 第12週 )に搬入された手足口病患者の咽頭ぬぐい液からエンテロウイルス71型( EV71 )が分離された。ウイルス分離にはHeLa、FL、Vero、RD-18Sの4細胞を用いたが、Vero細胞にのみ細胞変性効果( CPE )が見られた。分離されたウイルスの感染価は $7.9 \times 10^6$  TCID<sub>50</sub>/25  $\mu$ lであった。同定は感染研参与のEV71抗血清を用いて行った。

第21週現在、当研究所に持ち込まれた手足口病患者の咽頭ぬぐい液11検体中6検体からウイルスが分離されているが、これらもすべてVero細胞にだけCPEを示しており、同定作業を急いでいるところである。また、無菌性髄膜炎患者の咽頭ぬぐい液からもEV71が1株分離されている。

感染症発生動向調査によると、本県では第16週から手足口病の報告数が急激に増加しており、一方では無菌性髄膜炎発生報告数も増加傾向にある。現在流行している手足口病および無菌性髄膜炎の原因ウイルスがEV71であれば、今後、これらの疾患の発生動向には十分注意を払う必要がある。

熊本県保健環境科学研究所	西村浩一	田端康二	松尾 繁
	甲木和子	橋本 朗	
熊本地域医療センター	後藤善隆		

( 病原微生物検出情報6月号-IASR vol.21 No.6, 2000-掲載記事 )

\*\*\*\*\*

訂正：IDWR21号掲載「ホタルイカ生食を原因とする旋尾線虫幼虫移行症の発生状況」、「『生ホタルイカ』からの旋尾線虫幼虫の検出状況」が「病原微生物検出情報5月号掲載予定記事」とありましたが、「病原微生物検出情報6月号-IASR vol.21 No.6, 2000掲載記事」と訂正させていただきます。



## 海外感染症情報

### Clostridium novyiが「重篤な原因不明の疾患」の原因の可能性 - 英国(続報)

Eurosurveillance Weekly 2000年6月15日

複数の研究所の検査結果によると、注射による麻薬常用患者における「重篤な診断不明の疾患」症例は、*Clostridium novyi* A型感染の結果であることが示唆されている。グラスゴー保健当局は9人の患者から*Clostridium*属の細菌が検査室で検出されたことを公表した。保健当局(PHLS)はそれらのうち2例が*Clostridium novyi* A型と確認しており、CDCも3例目の患者組織から同菌を確認した。残りの6例も*Clostridium novyi* A型である可能性があるものの、結果は確定していない。PHLSは分離された細菌株が毒素産生性であることを確認している。

### ブラジルにおけるシャガス病の現状

WHO WER No.19,2000,75,153-160

シャガス病は、慢性で不治の寄生虫疾患で障害や死亡の原因となる。シャガス病は、辺地や無計画な都市開発地で粗末な家の土壁の隙間に住むサシガメが媒介する病気であったが、70年代と80年代にラテンアメリカで辺地から都市への人口移動があり、感染経路は、辺地での虫による感染から、都会での輸血による感染に変わってきている。

慢性患者の30%に重度の不整脈や消化器病変の合併症を認め、ブラジルだけで年間発生患者数は、不整脈7万5千人、巨大食道症4万5千人、巨大結腸症3万人にのぼる。ペースメーカーと腸切除だけで年間の医療費は7億5千万米ドルにのぼると推定されておりその経済的損失は大きい。

1970年には、流行地域は国土の36%以上におよび、病気の主な媒介昆虫であるサシガメの生息は過半数の自治体でみられた。1975年にシャガス病抑制のための国家計画が立てられ、全国規模で家屋への殺虫剤散布が行われた。

2000年3月にブラジル保健省が発表したデータでは、かつて流行のみられた12州のうち6州で、虫を媒介とした感染がみられなくなり、さらに今年中に4つの州で根絶が確認される予定である。その10州は、Goias, Matto Grosso, Matto Grosso do Sul, Minas Gerais, Paraiba, Pernambuco, Piaui, Rio de Janeiro, Rio Grande do Sul, Sao Pauloである。

1998年に全国で予防対策に基づいて捕獲されたサシガメの数は562匹であり、これは調査した1万戸あたり1匹の比率であった。この数値は寄生虫が有効に新たな患者に感染するために必要な最小限の数を遙かに下回る。この結果はシャガス病がブラジルで媒介昆虫による感染が阻止されたことを示す。

1999年度全国の0-7歳のシャガス病の罹患率は、0.28%であり、これは1989年の5%と比べ著明な減少がみられている。さらに、血液銀行における血液の汚染率も1980年の7%から1998年の0.73%へ減少した。

まだ媒介昆虫による感染が残っているBahia州とTocantins州では積極的に殺虫剤散布が行われている。

(この報告は、2000年3月にリオデジャネイロで開かれた第9回政府間委員会でのブラジル保健省の報告に基づいている。)



# 感染症の話 \*前編は22号に掲載

## エイズ(ヒト後天性免疫不全症候群) 後編

### 臨床症状

HIV感染に伴う臨床病期の分類には表2に示すCDC分類が用いられる。HIV感染直後にはインフルエンザ様症状が一過性に見られる(急性感染期/CDC分類第I群)が、数週間で無症候期(CDC分類第II群)に移行する。感染後6-8週で血中に抗体が出現し、全経過にわたって検出される。無症候期は平均10年程度で、全身のリンパ節腫脹、発熱等を主徴とするエイズ前駆期(CDC分類第III群)を経て、エイズが発症する(CDC分類第IV群)。エイズ期にはカリニ肺炎、カポジ肉腫に代表される様々な日和見感染症や悪性腫瘍、エイズ痴呆と呼ばれる中枢神経症状など多彩な症状が出現する。

第I群	急性感染 伝染性単核球症様あるいはインフルエンザ様症状
第II群	無症候性感染
第III群	持続性全身性リンパ節腫脹(PGL): 径1cm以上のリンパ節腫脹が鼠径部以外の2カ所以上に3カ月以上持続してみられるもの
第IV群	その他の疾患合併 サブグループA 全身症状 1カ月以上続く発熱, 下痢, 10%以上の体重減少など サブグループB 神経症状 痴呆, 脊髄症, 末梢神経症 サブグループC 二次感染 C-1 サーベイランスの定義に記載されている12疾患: カリニ肺炎, 慢性クリプトスポリジウム症, トキソプラズマ症, イソスポラ症, 腸外糞線虫症, カンジダ症(食道, 気管, 肺), クリプトコッカス症, ヒストプラズマ症, 非定型抗酸菌症(トリ型コンプレックス, カンサス型), サイトメガロウイルス感染症, 進行性多発性白質脳症, 単純ヘルペス(慢性粘膜・皮膚型, 全身型) C-2 他の6種類の二次感染: 口腔毛状白板症, 帯状疱疹(多皮膚節), ノカルジア症, 反復性サルモネラ血症, 結核, 口腔カンジダ症 サブグループD 二次悪性腫瘍 カポジ肉腫, 非ホジキンリンパ腫, 原発性脳リンパ腫 サブグループE その他の症状 慢性リンパ性間質性肺炎, その他

表2. HIV感染症のCDC分類

(注) この1986年のCDC分類を基礎として、1993年にはさらに侵襲性子宮頸癌などの新たな病態がAIDS診断基準として加えられている。

### [話題3 - HIV感染やエイズ発症抵抗性の遺伝的背景]

これまで男性同性愛者や性風俗産業の従事者(コマーシャルセックスワーカー)の中で、非常にリスクの高い性行動をしているにも拘らず、感染から免れている人々(Exposed-uninfected)が存在することや、一方ウイルスに感染しているにも拘わらず、15年以上の長期間にわたってエイズの発症から免れている - いわゆる長期未発症者(long-term non-progressor, LTNP)が存在することが明らかにされていた。しかしこのような現象がどのような要因によるものかについては、これまで決定的な解答を見出すことはできなかった。このような感染・発症抵抗性の遺伝的背景の一部として、コレセプター遺伝子など宿主遺伝子の多型性が関与していることが、最近急速に明らかになりつつある。

まず最初に、非常にリスクの高い性行動を繰り返しているにもかかわらず感染を免れている男性同性愛者のコホート研究から、CCR5のΔ32と呼ばれる32塩基の欠失変異が発見された。この変異を持つ場合、ウイルスに対して感染しにくく、また発症しにくくなる(発症が2-4年遅延する)。CCR5の



32変異は白人男性ではヘテロザイゴートが一般集団でも8%程度存在し、ホモザイゴートも1%弱の高頻度に存在する。変異遺伝子頻度は北欧で高く(13%)、南に下るにつれて低下する傾向がある。この変異は我々日本人を含む東洋人やアフリカ人には見いだされない。このことは、この変異が各人種が分岐した後の人類史上の比較的最近に発生したことを示唆している。分子進化学的解析から、この変異の起源は、現在から約650年ほど前の14世紀中頃(1346-1352年) 欧州でペストの大流行が起こっていた頃であり、この変異をもつ人々がペスト流行から生き残る上で何らかのアドヴァンテージがあったのではないかと推論がなされているが、真相は不明である。

CCR5の 32変異の発見の後、表3に示すような様々なコレセプター遺伝子の多型がエイズ発症を遅延あるいは促進する効果をもつことが明らかにされている。また最近、コレセプター遺伝子多型ではないが、ヒトの組織適合抗原の多型性もエイズ発症に影響を及ぼすことが明らかになっている。HLAクラスIの3つの座位がいずれもヘテロであると提示できるエピトープの数が増えるためAIDSの発症が遅延する。すなわち、HLAが多様性に富んでいて、より多様な抗原に対応できる人ほど、発症しにくいということが示されている。一方クラスIのB35あるいはCw04を持っていると発症が加速されることが明らかにされている(表3)。

遺伝子	変異遺伝子名 (allele)	効果	HIV-1に対する感染感受性に及ぼす影響	エイズ発症に及ぼす影響
CCR5	32	優性	↓	↓
CCR5P (プロモーター遺伝子多型)	P1*	劣性	→	↑
CCR2	64 I	優性	→	↓
SDF	3'A	劣性	→	↓
HLA	A, B, C ホモザイゴート	共優性	?	↑
HLA	B*32	共優性	?	↑
HLA	C*04	共優性	?	↑

\*CCR5プロモーター遺伝子配列のP1-P4の4種の多型のうち、P1はエイズ発症を促進する効果を示す

表3 . HIV-1に対する感染感受性やエイズ発症に影響を及ぼす宿主遺伝子多型

**治療・予防**

エイズ治療はこれまでの10年間で急速な進歩をとげ、感染者に大きな福音をもたらしている。AZT (azidothymidine) を代表とする逆転写阻害剤( reverse transcriptase inhibitor, RTI )に加え、近年、優れたプロテアーゼ阻害剤( protease inhibitor, PI )が開発され、RTI剤2種とPI剤1種との組み合わせによる多(3)剤併用療法( highly active antiretroviral therapy, HAART )が奏効している。この治療法の導入により、先進国における日和見感染症の頻度や、エイズによる死亡者数が95年以来40%も減少してきている。できるだけ早期に治療を開始し、ウイルスの複製を押さえ込むことが治療の鉄則となりつつある。血漿中ウイルス量5,000-20,000コピ - /ml以上、CD4陽性リンパ球500/μl以下が標準的な治療開始の基準となっている。治療に用いられる抗ウイルス剤の構造と推奨される薬剤の組み合わせ

せを図4に示す。しかし、薬剤へのアドヒランス( 投薬スケジュールを厳密に遵守することが、副作用、服薬条件等の問題で必ずしも容易でないこと) 耐性の問題などで、米国においても、これまで年々半減してきた死亡数の減少が頭打ちになりつつある。今後、さらに副作用の少ない、服用しやすい( 現行のHAARTでは薬の服用が空腹時、食後、食間、薬によっては多量の水分補給が必要など非常に煩瑣である) 新薬の開発や服薬条件の工夫・改善などが必要と考えられる。また、多剤併用療法は決して根治的療法ではなく、血中のウイルス量が検出限界以下となっても、依然リンパ節、中枢

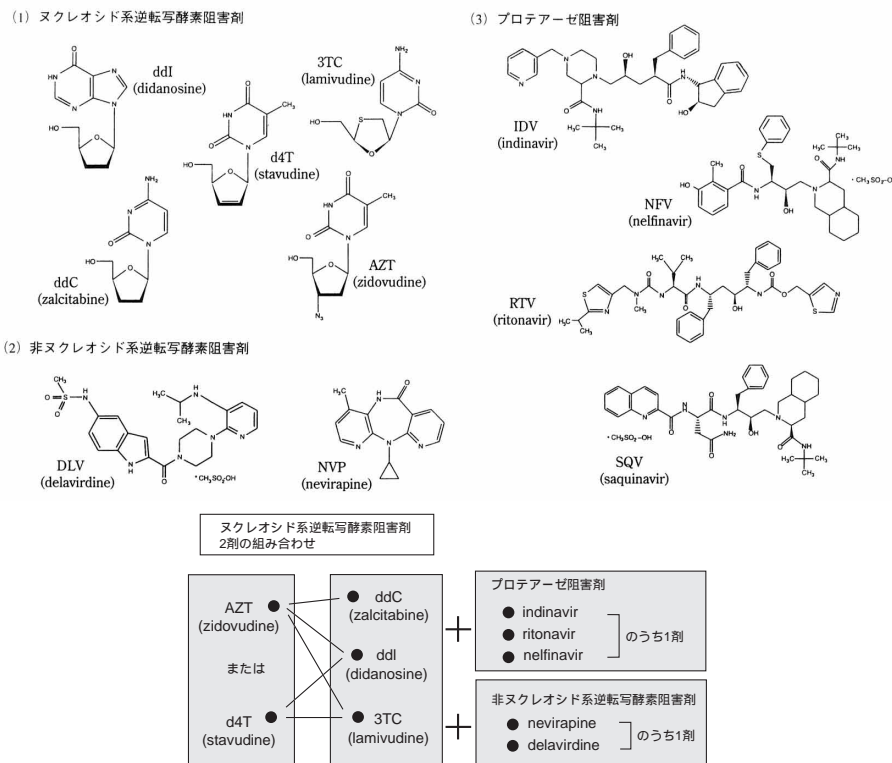


図4 . HIV感染症に対する3剤併用療法に用いられる抗HIV剤とそれらの推奨される組み合わせ

神経系などに、ウイルスが駆逐されずに残存( latent reservoir )することが知られており、服薬を中止すると直ちにウイルスのリバウンドが起ってくる。このように、薬物療法には、依然改善すべき様々な問題点が残されており、新薬の開発だけでなく、エイズ発症のメカニズム( AIDS Pathogenesis )に関するより深い理解に向けた基礎研究が急務となっている。

エイズ治療のもう一つの重要な領域が、エイズに伴う種々の日和見感染症に対する治療法の発展で、特に、欧米での流行の初期のエイズの主要な死因であったカリニ肺炎に対する特效薬であるペンタミジン吸入による実質的な患者の延命効果はその代表的な例である。表4にエイズに合併する様々な日和見感染症に対する薬剤をまとめる。

HIVの感染予防の鉄則は、他の感染症と同様、その感染経路を断つことである。HIVの感染経路は、1 . 経血液、2 . 性的接触、3 . 母子感染の3つ( その他、臓

適応症	治療薬 (一般名)
カリニ肺炎	atovaquone ST合剤
口腔内カンジダ	clotrimazole
トキソプラズマ症	pyrimethamin sulfadiazine
帯状疱疹	famcicovir
非定型抗酸菌症	rifabutin azithromycin
赤痢アメーバ	iodoquinol
抗真菌薬	amphotericin B
サイトメガロウイルス感染症	cidofovir

表4 . エイズに合併する日和見感染症に対する予防・治療薬

器・角膜移植による稀な感染例が知られている)であり、感染予防の基本はこれら3経路を遮断することにある。蚊刺や、握手や抱擁、軽いキスなどの日常的な接触( カジュアル・コンタクト )によっては感染しない。個々の経路による感染予防の方法は、次のようである。

- 1 . 経血液経路の遮断 : HIVに汚染された血液・血液製剤の輸血・輸注の危険を回避するための血液スクリーニング、およびHIVに汚染されていない血液・血液製剤の使用。薬物乱用者との薬物の回し打ち( needle sharing )を行わないこと。我が国ではさらに検査目的で献血を行われることのないような体制作りと啓発活動が必要と考えられる( 前編「疫学」を参照のこと )。
- 2 . セーフ・セックスの実行 : コンドームの使用。感染しているかどうか分からない相手との性交渉を避ける。感染のリスクの高い肛門性交をさけることなど。
- 3 . 母子感染の防止策 : 感染した母体から約30%の頻度で児に感染するが、感染母体および出生児への抗ウイルス薬( AZTやネビラピン )の投与によって、感染を防ぐことができる。エイズは依然その拡がりを制御することが困難な病気であるが、少なくとも、母子感染による次世代の感染に関していえば、現在の医学によって、すでに予防可能な病気となっている。

感染予防の究極の方法はワクチンである。しかし、HIVが抗原構造の多様性と著しい変異性を示すこと、HIVが免疫応答の中核にあるヘルパーT細胞そのものを破壊することなどに加えて、ワクチン開発研究のための優れた動物モデルがないことなど様々な要因から、ワクチンの実用化の目途はたっていない。新たな感染の90%が、高価な薬物療法の恩恵を享受できない開発途上国に発生していることを考えると、有効なワクチンの一日も早い開発が望まれる。

### 発生動向調査について

感染症新法に基づき、エイズ・HIV感染者の発生動向は、毎2カ月間隔で厚生省が主催するエイズ動向委員会( 委員長 柳川 洋 )によって、各都道府県を通じて厚生省に報告された過去2カ月間の症例を集計した結果に基づき分析がなされ、公表される。集計結果は、性別・感染原因、性別・年齢、性別・感染地域等のカテゴリー別にまとめられ、発生動向が多角的に分析される。厚生省ホームページ( <http://www.mhw.go.jp> )の見出し「新着情報」の中の「エイズ動向委員会」の項を参照されたい。

### 感染症新法の中でのエイズ( 後天性免疫不全症候群 )の取扱い

エイズ( 後天性免疫不全症候群 )は第4類の全数把握疾患に定められており、診断した医師は7日以内に保健所に届け出る必要がある。報告のための基準は、以下の通りとなっている。

[ サーベイランスのためのHIV感染症/AIDS診断基準 ( 厚生省エイズ動向委員会、1999 )抜粋 ]

#### I . HIV感染症の診断

- 1 . HIVの抗体スクリーニング検査法[ 酵素抗体法( ELISA ) 粒子凝集法( PA ) 免疫クロマトグラフィー法( IC )等 ]の結果が陽性であって、以下のいずれかが陽性の場合にHIV感染症と診断する。
  - ( 1 ) 抗体確認検査[ Western Blot法、蛍光抗体法( IFA )等 ]
  - ( 2 ) HIV抗原検査、ウイルス分離及び核酸診断法( PCR等 )等の病原体に関する検査( 以下、「HIV病原検査」という。 )

2. ただし、周産期に母親がHIVに感染していたと考えられる生後18カ月未満の児の場合は少なくともHIVの抗体スクリーニング法が陽性であり、以下のいずれかを満たす場合にHIV感染症と診断する。

- (1) HIV病原検査が陽性
- (2) 血清免疫グロブリンの高値に加え、リンパ球数の減少、CD4陽性Tリンパ球数の減少、CD4陽性Tリンパ球数/CD8陽性Tリンパ球数比の減少という免疫学的検査所見のいずれかを有する。

## II. AIDSの診断

Iの基準を満たし、IIIの指標疾患( Indicator Disease )の1つ以上が明らかに認められる場合にAIDSと診断する。

## III. 指標疾患( Indicator Disease )

### A. 真菌症

- 1. カンジダ症( 食道、気管、気管支、肺 )
- 2. クリプトコッカス症( 肺以外 )
- 3. コクシジオイデス症
  - ① 全身に播種したもの
  - ② 肺、頸部、肺門リンパ節以外の部位に起こったもの
- 4. ヒストプラズマ症
  - ① 全身に播種したもの
  - ② 肺、頸部、肺門リンパ節以外の部位に起こったもの
- 5. カリニ肺炎  
(注) 原虫という説もある

### B. 原虫症

- 6. トキソプラズマ脳症( 生後1カ月以後 )
- 7. クリプトスポリジウム症( 1カ月以上続く下痢を伴ったもの )
- 8. イソスポラ症( 1カ月以上続く下痢を伴ったもの )

### C. 細菌感染症

- 9. 化膿性細菌感染症( 13歳未満で、ヘモフィルス、連鎖球菌等の化膿性細菌により以下のいずれかが2年以内に、二つ以上多発あるいは繰り返して起こったもの )
  - ① 敗血症
  - ② 肺炎
  - ③ 髄膜炎
  - ④ 骨関節炎
  - ⑤ 中耳・皮膚粘膜以外の部位や深在臓器の膿瘍
- 10. サルモネラ菌血症( 再発を繰り返すもので、チフス菌によるものを除く )
- 11. 活動性結核( 肺結核又は肺外結核 )
- 12. 非定型抗酸菌症
  - ① 全身に播種したもの
  - ② 肺、皮膚、頸部、肺門リンパ節以外の部位に起こったもの

### D. ウイルス感染症

- 13. サイトメガロウイルス感染症( 生後1カ月以後で、肝、脾、リンパ節以外 )
- 14. 単純ヘルペスウイルス感染症
  - ① 1カ月以上持続する粘膜、皮膚の潰瘍を呈するもの

- ②生後1カ月以後で気管支炎、肺炎、食道炎を併発するもの  
15. 進行性多巣性白質脳症

E. 腫瘍

16. カポジ肉腫  
17. 原発性脳リンパ腫  
18. 非ホジキンリンパ腫  
LSG分類により  
①大細胞型  
免疫芽球型  
②Burkitt型  
19. 浸潤性子宮頸癌

F. その他

20. 反復性肺炎  
21. リンパ性間質性肺炎/肺リンパ過形成: LIP/PLH complex(13歳未満)  
22. HIV脳症(痴呆又は亜急性脳炎)  
23. HIV消耗性症候群(全身衰弱又はスリム病)

C11活動性結核のうち肺結核及びE19浸潤性子宮頸癌については、HIVによる免疫不全を示唆する症状または所見がみられる場合に限る。

《備考》

報告のための基準は、サーベイランスのための診断基準であり、治療の開始等の指標となるものではない。近年の治療の進歩により、一度指標疾患(Indicator Disease)が認められた後、治療によって軽快する場合もあるが、発生動向調査上は、報告し直す必要はない。しかしながら、病状に変化が生じた場合(無症候性キャリア AIDS、AIDS 死亡等)には、必ず届け出ることが、サーベイランス上重要である。

なお、報告票上の記載は、

- 1)無症候性キャリアとは、Iの基準を満たし、症状のないもの
- 2)AIDSとは、IIの基準を満たすもの
- 3)その他とは、Iの基準を満たすが、IIの基準を満たさない何らかの症状があるものを指すことになる。

(国立感染症研究所エイズ研究センター 武部 豊)



## 読者のコーナー

S区Yさん / 他数名より

伝染病予防法のもとの感染症発生動向調査では、乳児嘔吐下痢症と感染性胃腸炎を別々に報告していましたが、昨年4月の感染症新法の施行に伴って、発生動向調査では乳児嘔吐下痢症の疾患名が消え、感染性胃腸炎のみとなったようですが、過去のデータとの比較において、どのように考えればよいのでしょうか。

感染症新法下の感染症発生動向調査における感染性胃腸炎について

感染症新法下の感染症発生動向調査では、「感染性胃腸炎」として、広く嘔吐・下痢症患者のサーベイランスを行うことになりました。旧法下での乳児嘔吐下痢症と感染性胃腸炎を合わせたものと考えて下さい。原因としてはロタウイルス感染症とSRSV感染症がそのほとんどを占めますが、エンテロウイルス、アデノウイルスなどその他のウイルスによるものや細菌性のもも含まれます。感染症週報のグラフ総覧における過去10年間との比較グラフでも、旧法下の「乳児嘔吐下痢症患者の定点当たり報告数+感染性胃腸炎患者の定点当たり報告数」と新法下の「感染性胃腸炎」を比較しています(16ページグラフ総覧、感染性胃腸炎参照)。

( 回答担当 : 国立感染症研究所感染症情報センター )

\*\*\*\*\*

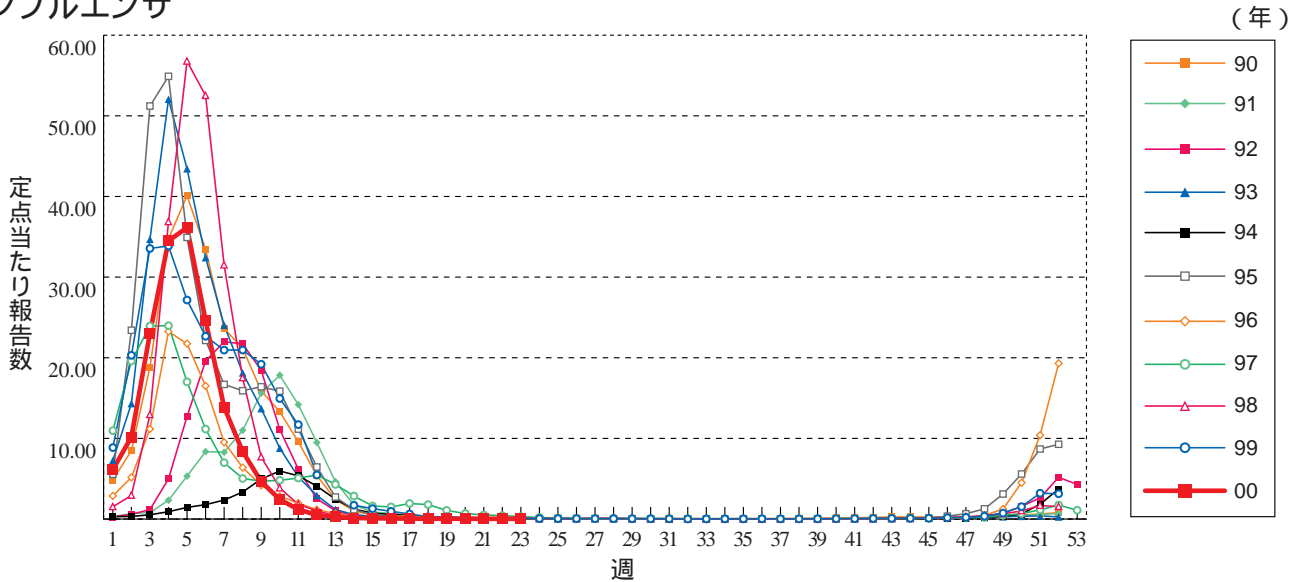
「読者のコーナー」では読者のみなさまからのご意見・ご質問をお待ちしております。  
ご意見・ご質問は、題名(タイトル)の一番はじめにidwr-QをつけてこちらまでEメールでどうぞ。

[idsc-query@nih.go.jp](mailto:idsc-query@nih.go.jp)

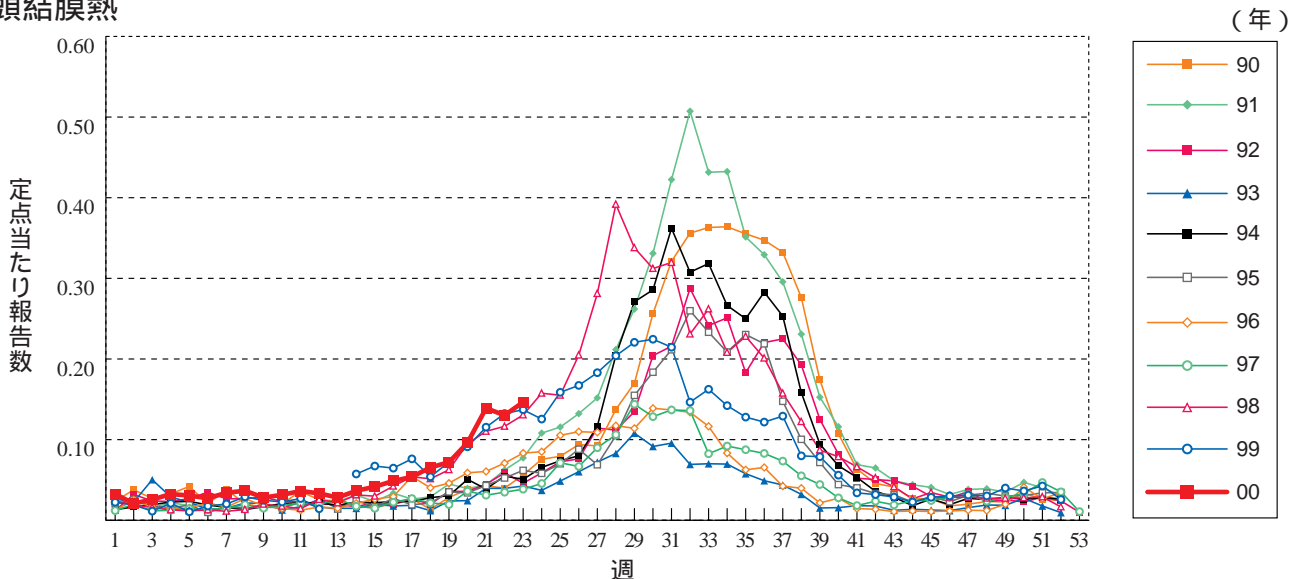


**グラフ総覧(23週)**

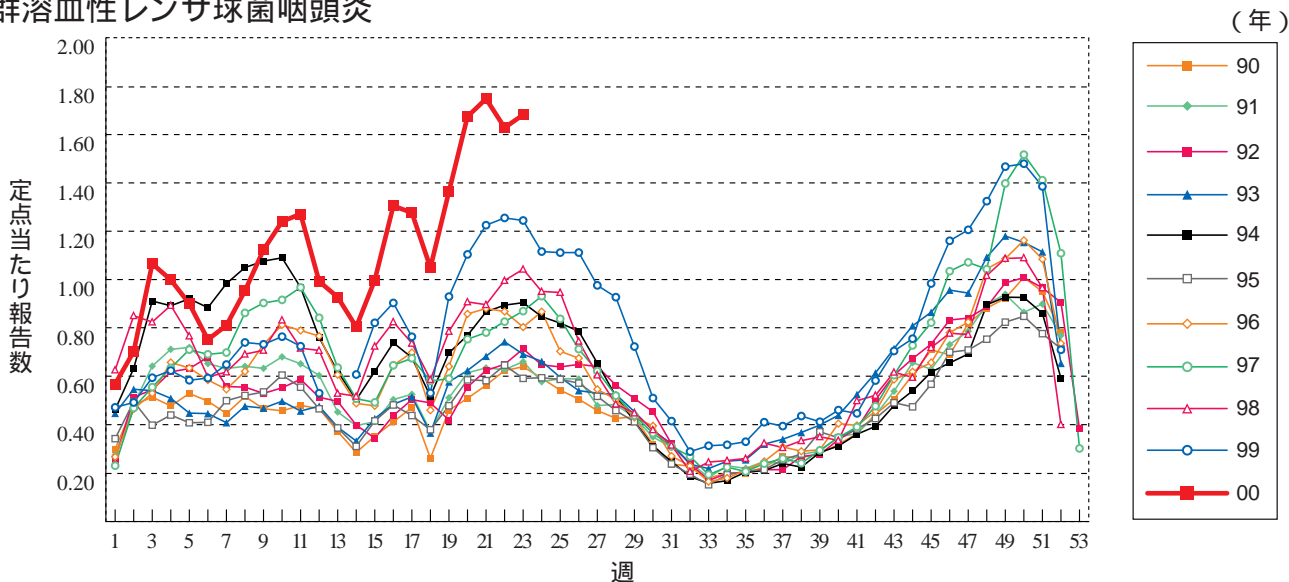
**インフルエンザ**



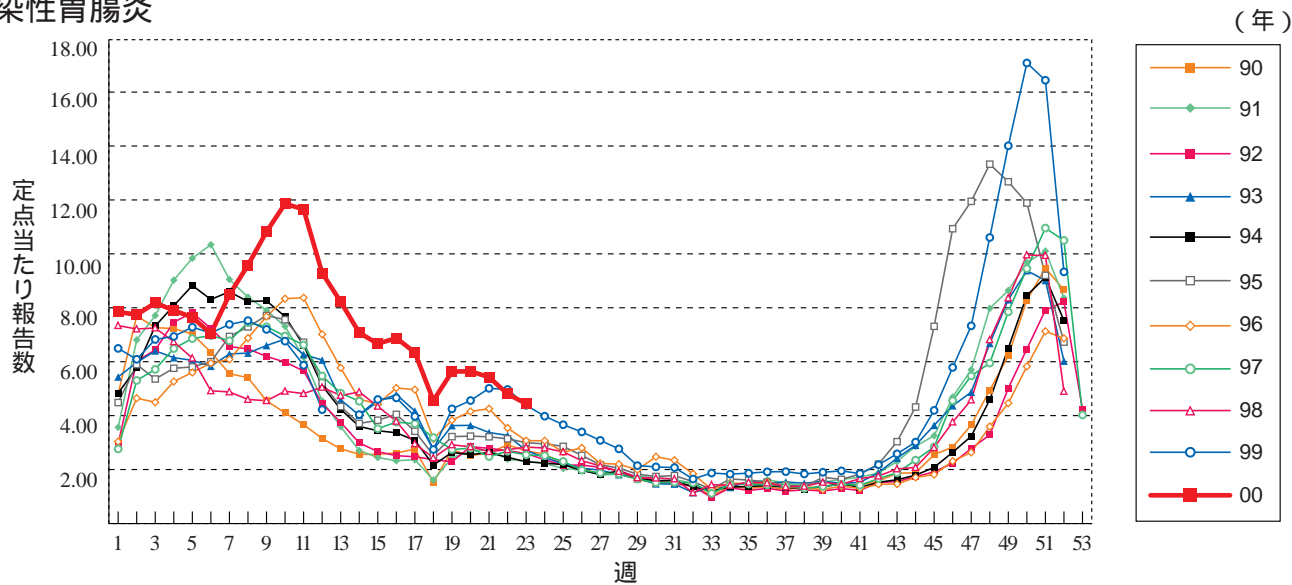
**咽頭結膜熱**



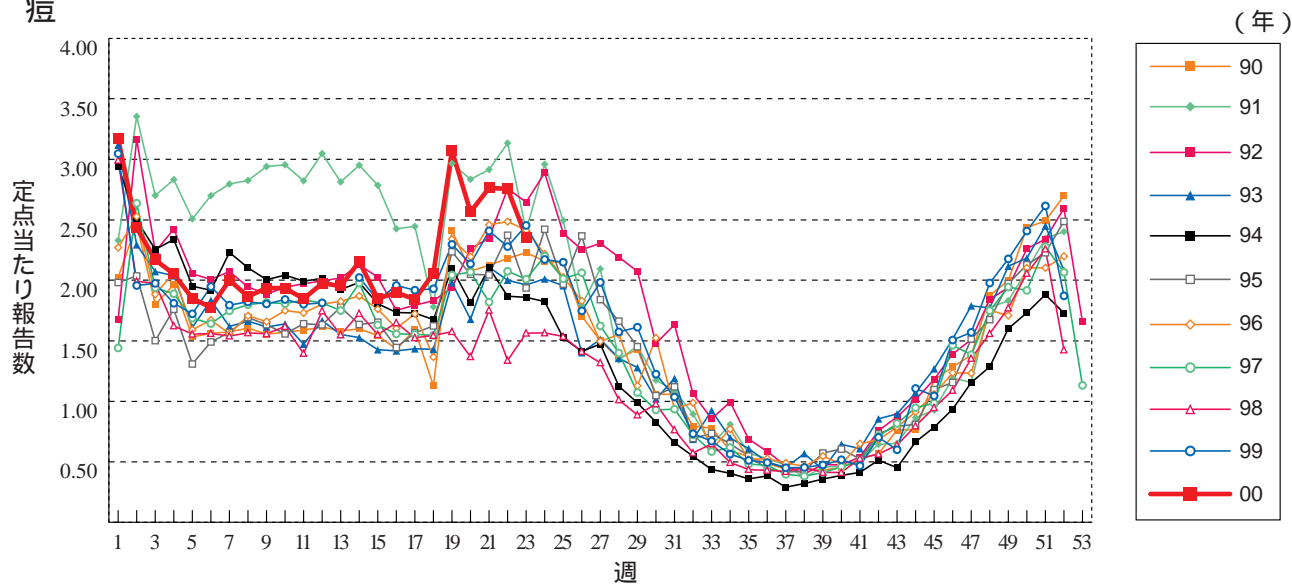
**A群溶血性レンサ球菌咽頭炎**



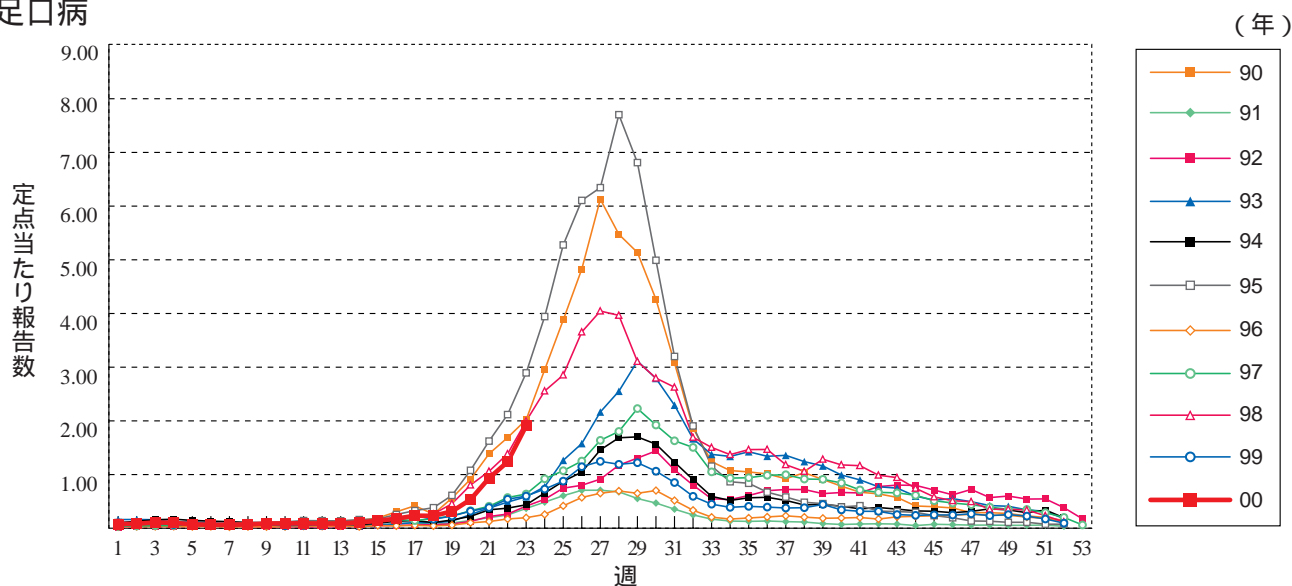
感染性胃腸炎



水痘

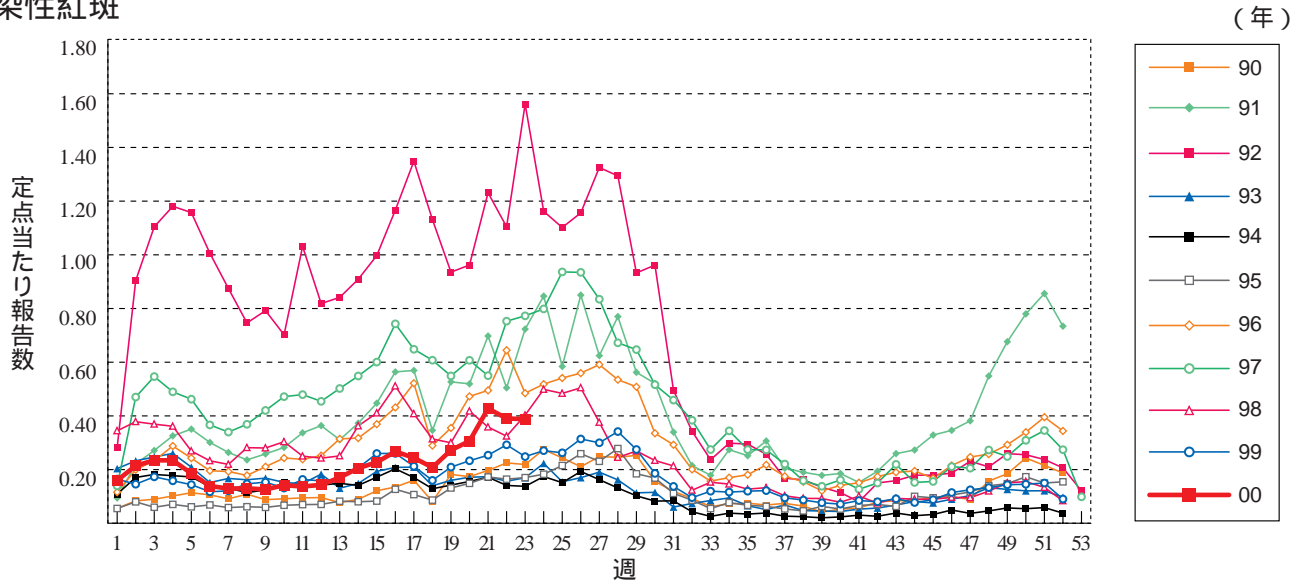


手足口病

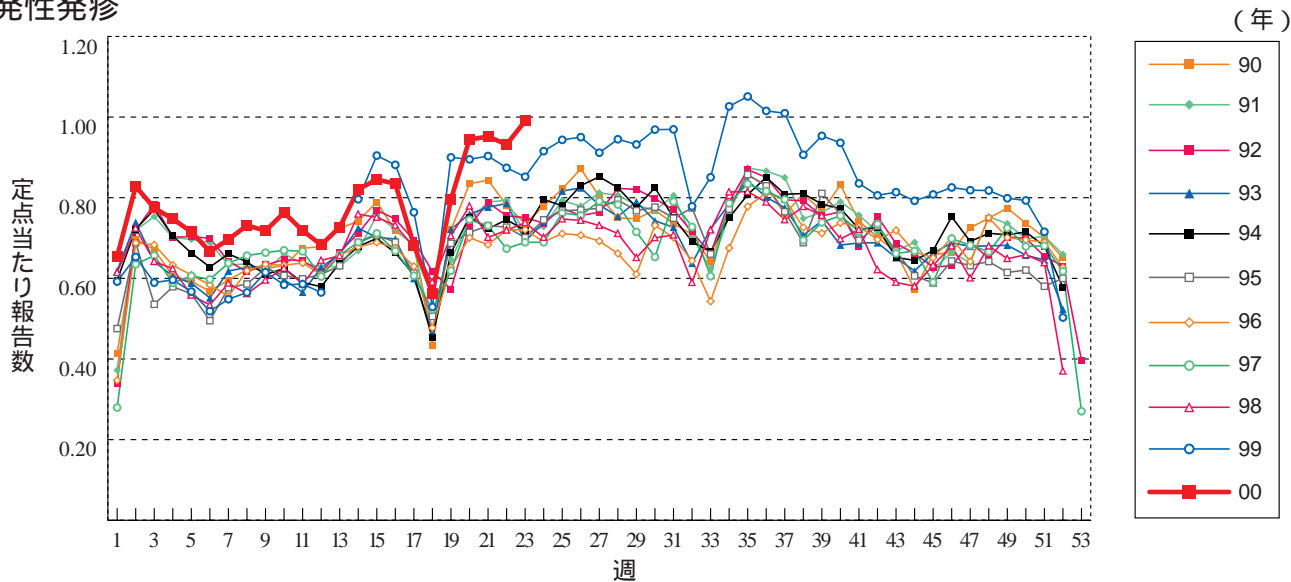




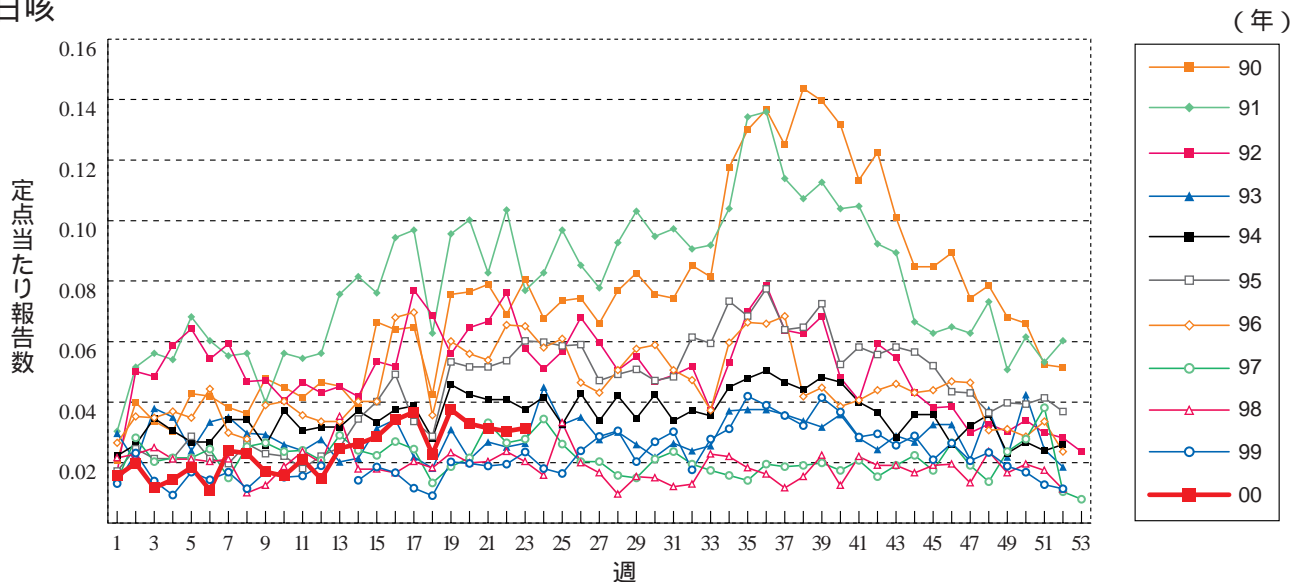
伝染性紅斑



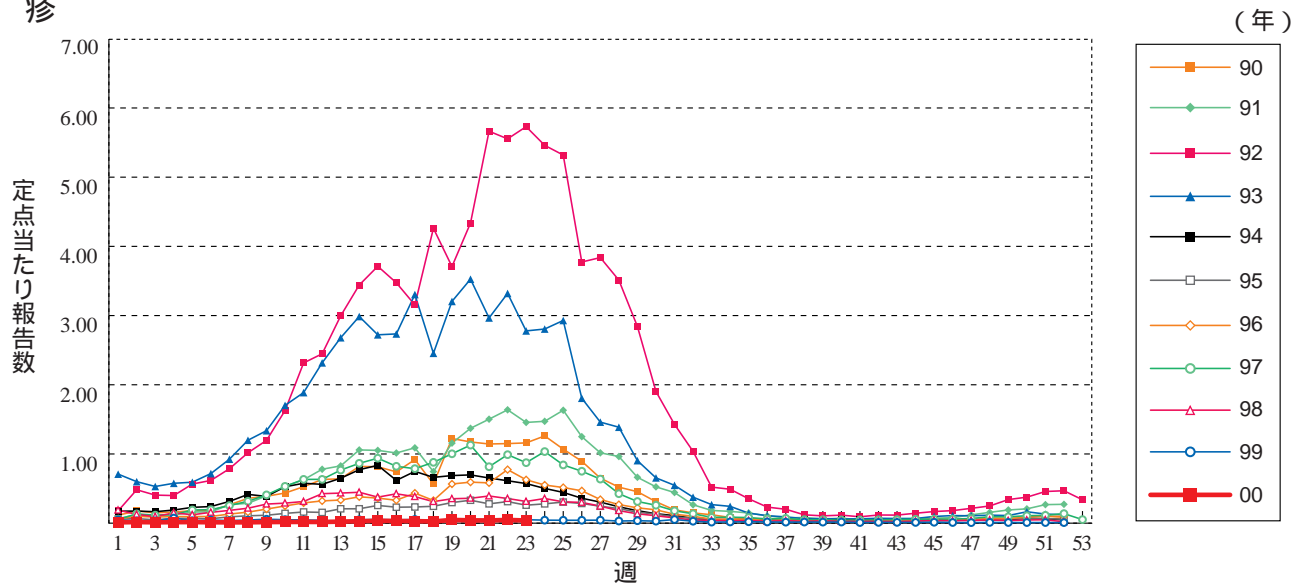
突発性発疹



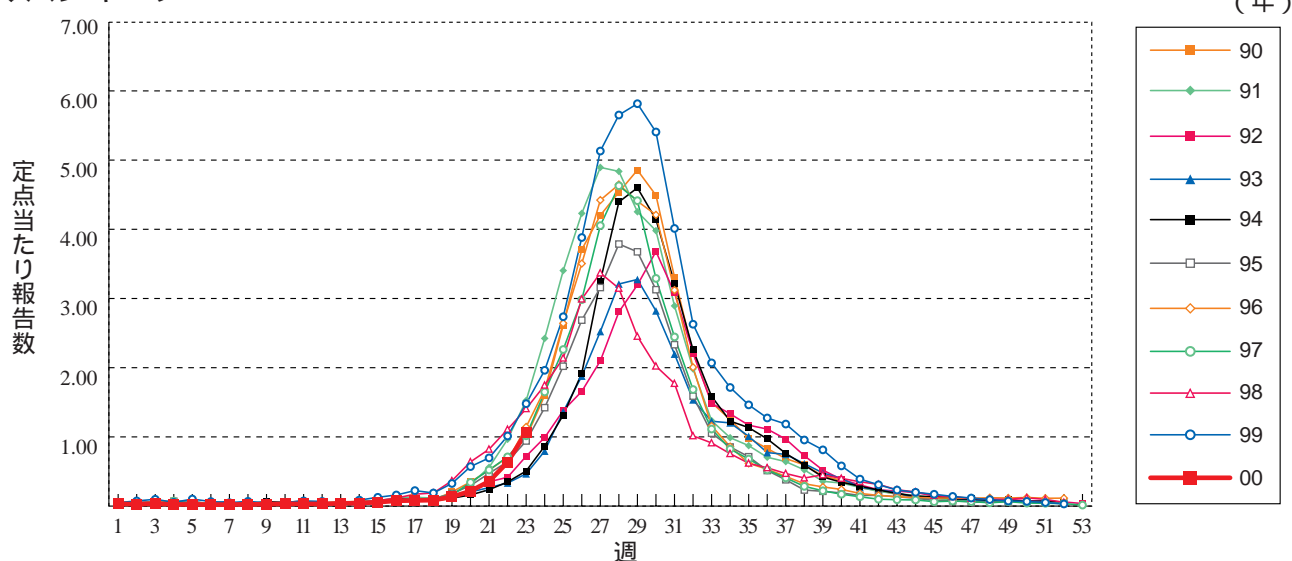
百日咳



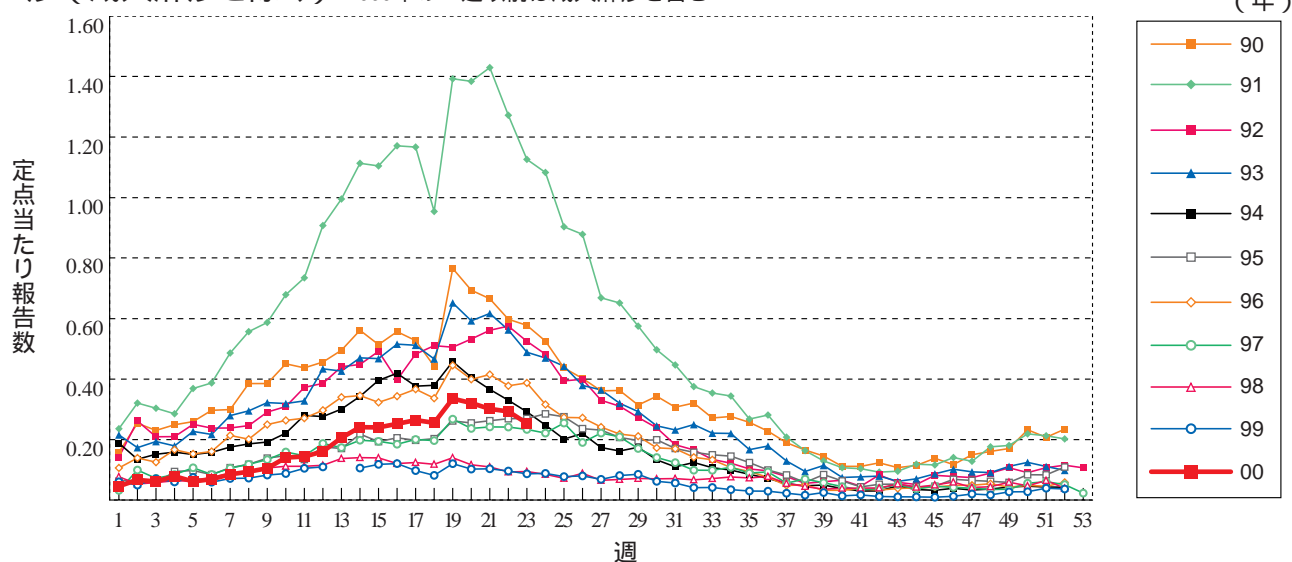
風 疹



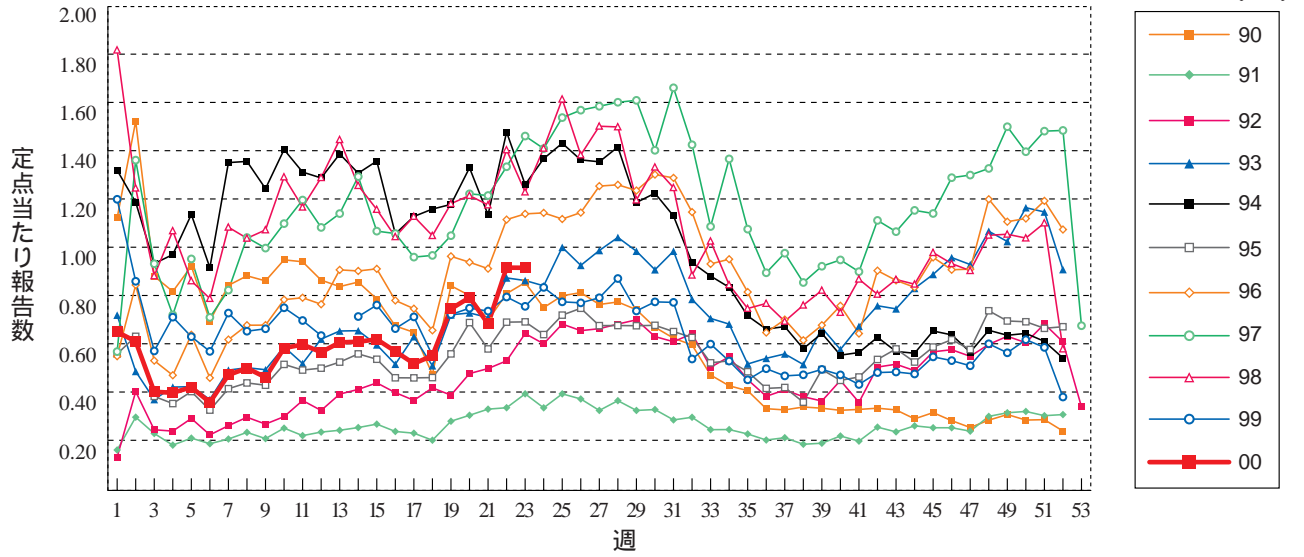
ヘルパンギーナ



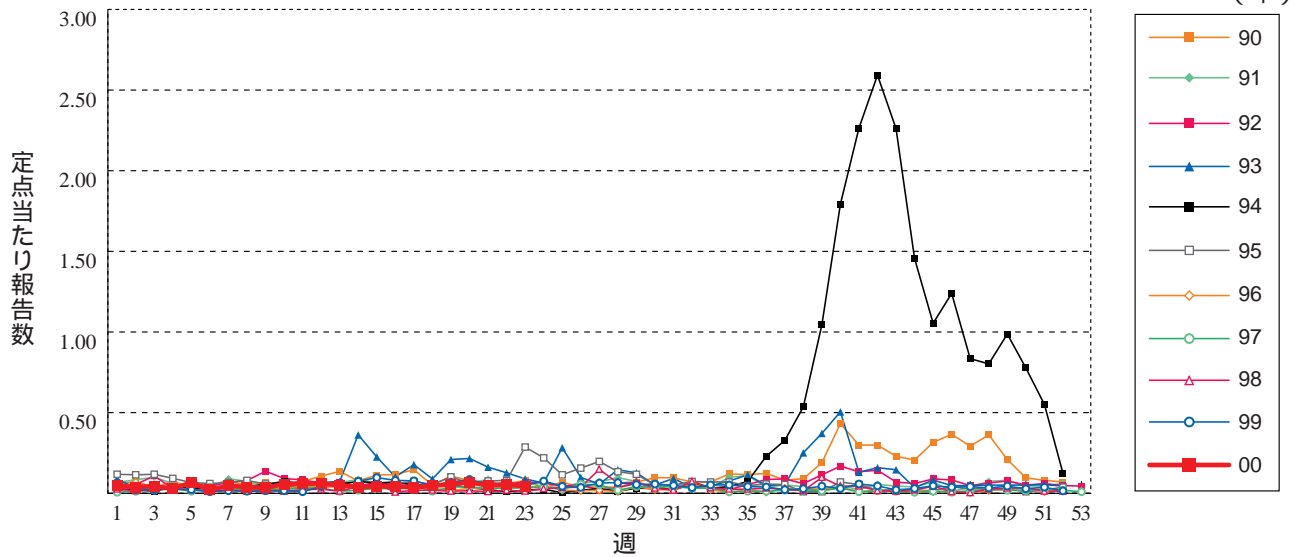
麻 疹 (成人麻疹を除く) 1999年の12週以前は成人麻疹を含む



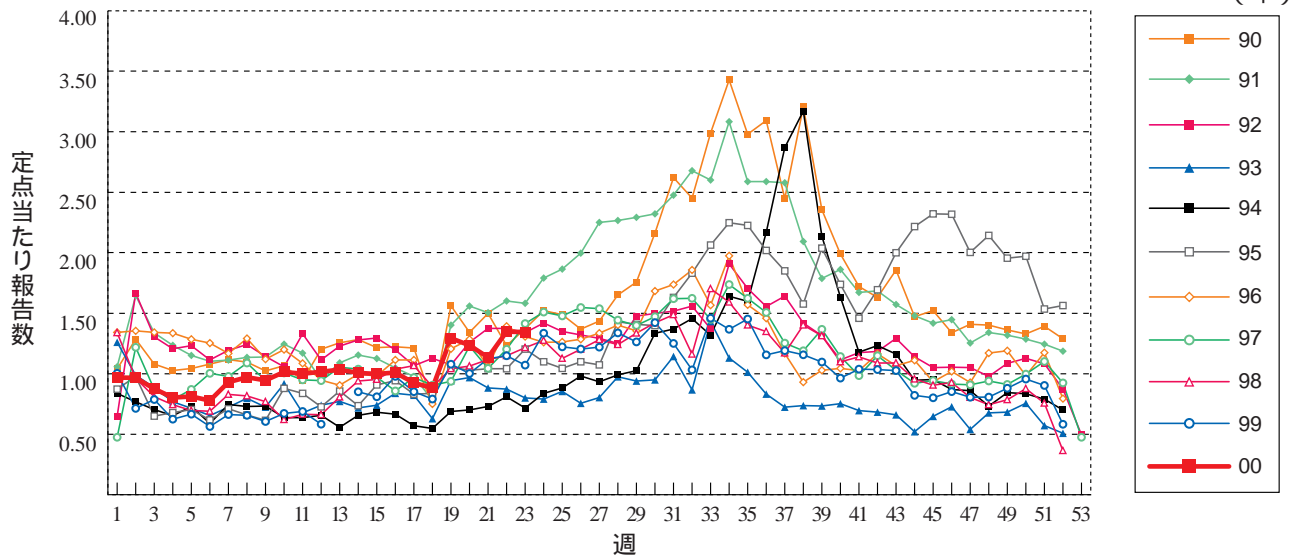
流行性耳下腺炎



急性出血性結膜炎

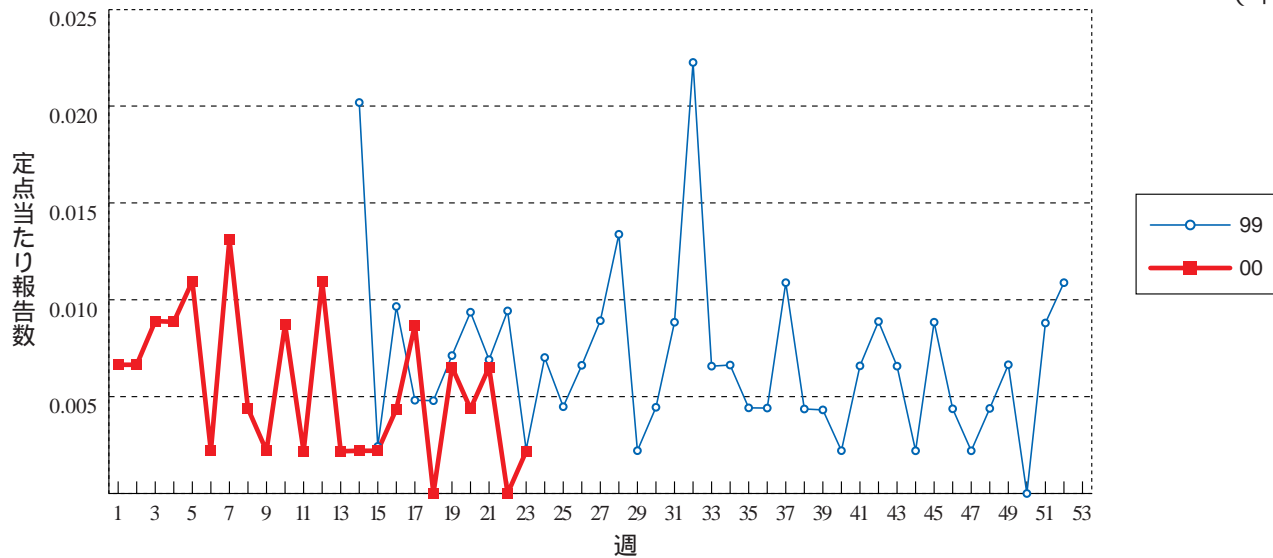


流行性角結膜炎



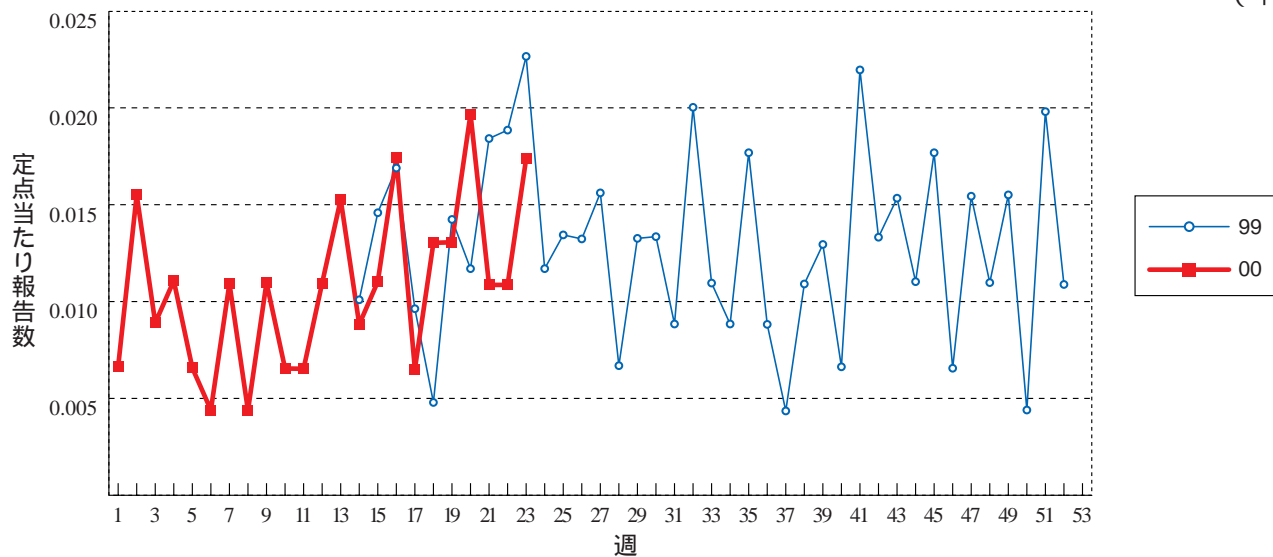
急性脳炎 (日本脳炎を除く)

(年)



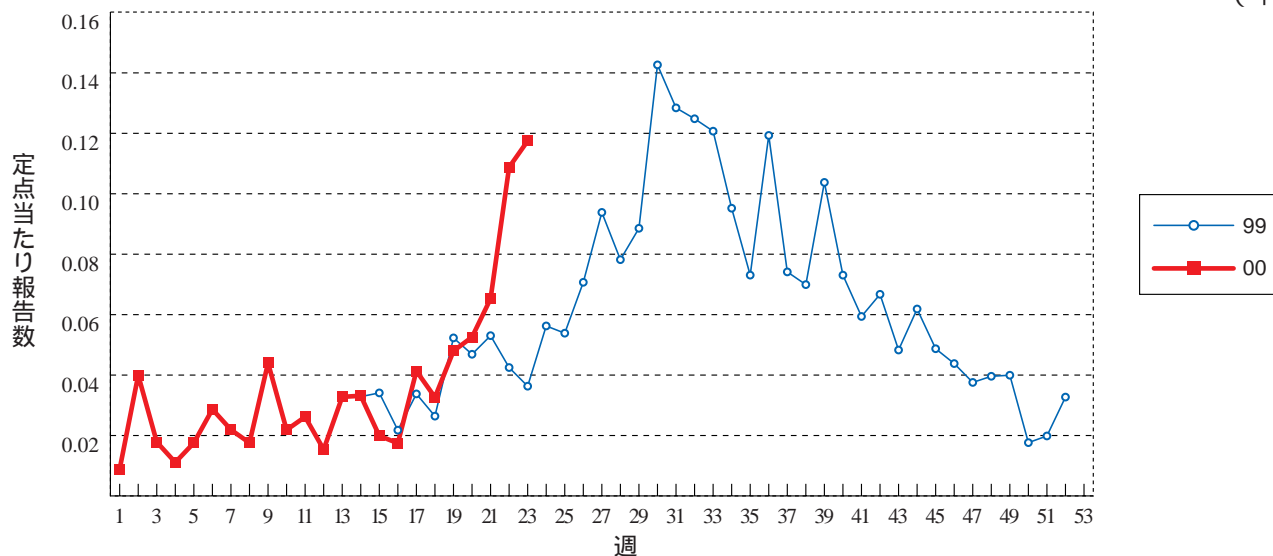
細菌性髄膜炎

(年)



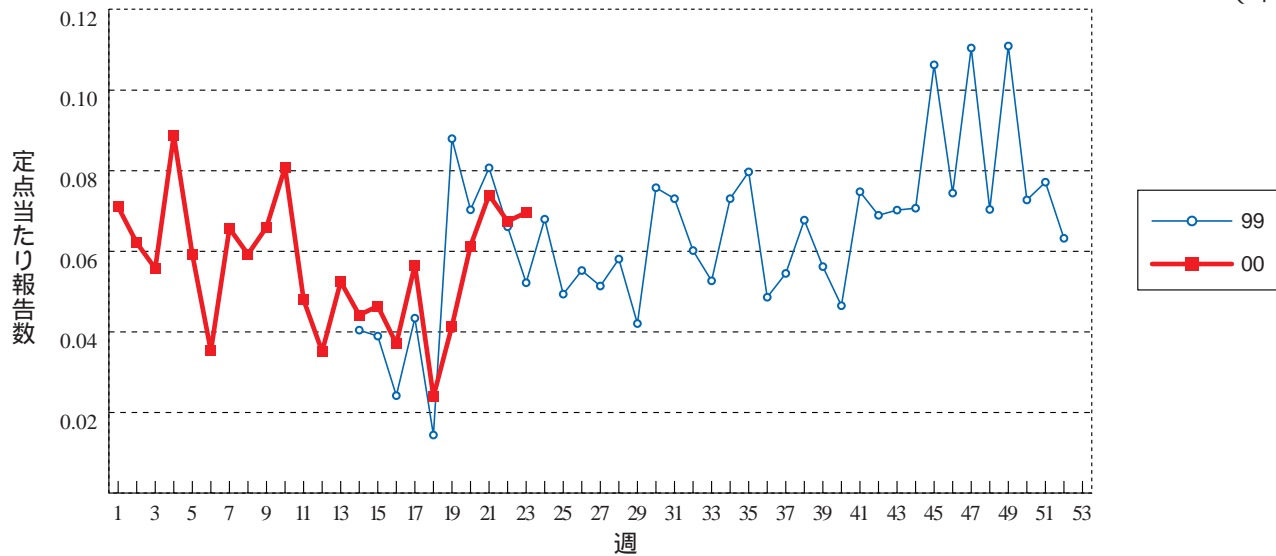
無菌性髄膜炎

(年)



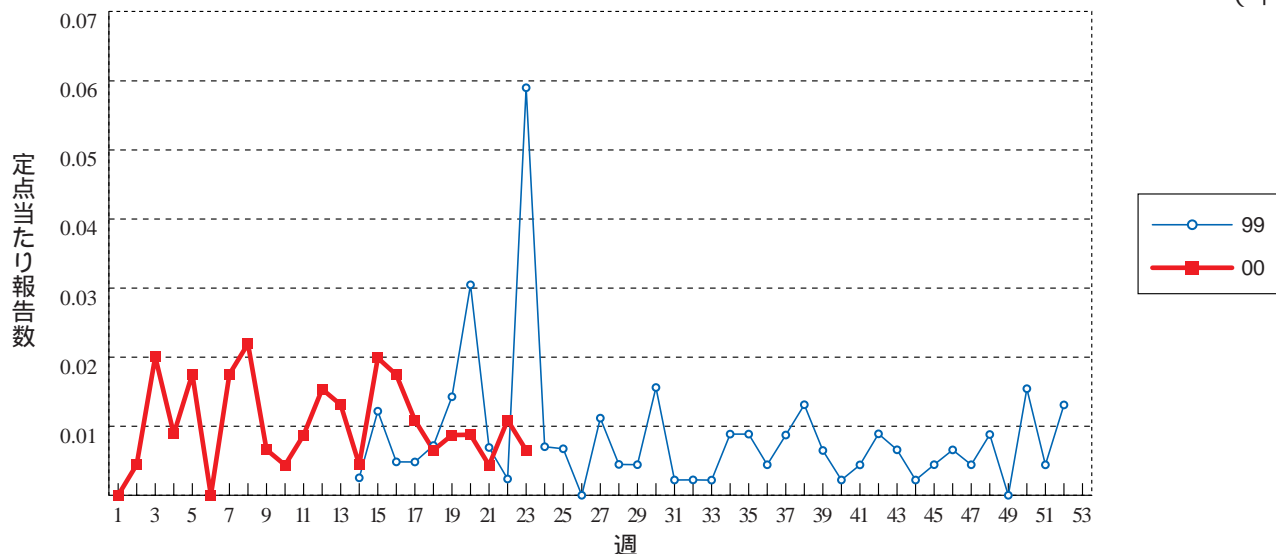
マイコプラズマ肺炎

(年)



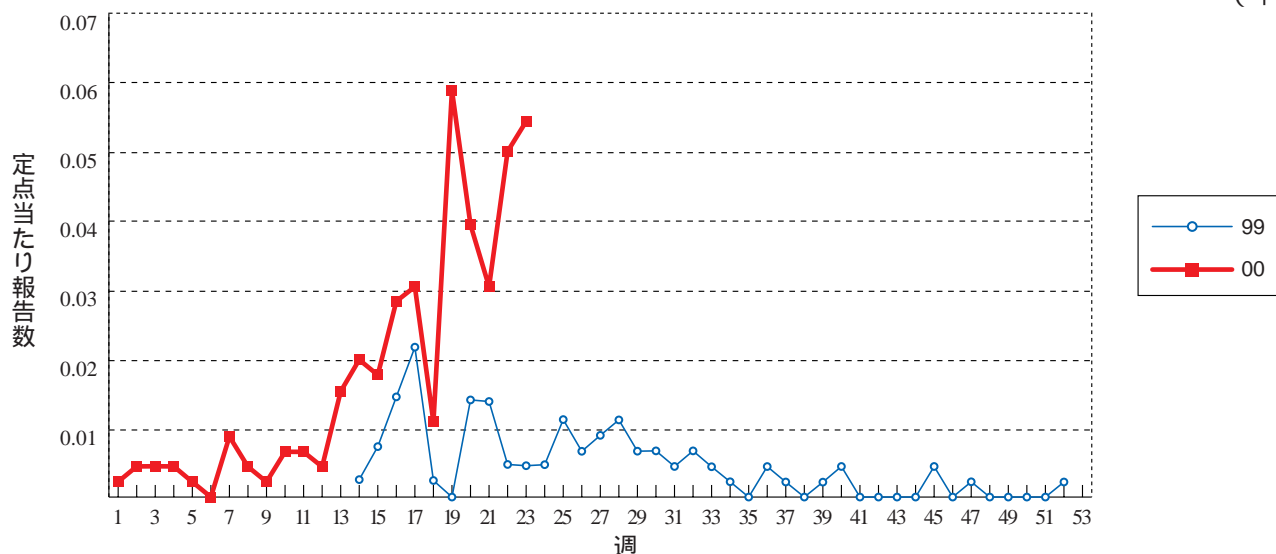
クラミジア肺炎 (オウム病を除く)

(年)



成人麻疹

(年)





## 23週のデータ

注)表中の報告数は6月16日集計分であり、その後の報告数は次週以降の累計に反映されます。

第3101表 報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成12年23週

	エボラ出血熱		クリミア・コンゴ出血熱		ペスト		マールブルグ病		ラッサ熱		コレラ		細菌性赤痢		腸チフス		バラチフス		
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	
総数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	15	4	325	2	50	-	5		
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	8	-	1	-	-		
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-		
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-		
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-		
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	17	-	-	-	-		
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-		
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-		
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	2	-	-		
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-		
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8	-	2	-	-		
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	12	-	2	-	1		
東京都	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1	63	-	8	-	2		
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	23	-	4	-	-		
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	-	1	-	-		
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-		
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-		
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-		
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	1	-	-		
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-		
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-		
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	1	2	-	-		
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	27	-	3	-	-		
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-		
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	1	2	-	-		
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	10	-	1	-	-		
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	32	-	4	-	2		
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11	-	7	-	-		
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	4	-	2	-	-		
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-		
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-		
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	3	-	-	-	-		
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	1	-	-		
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1	5	-	-	-	-		
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-		
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-		
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-		
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-		
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-		
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	15	-	1	-	-		
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-		
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-		
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	2	-	-		
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14	-	-	-	-		
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-		
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-		
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-		

第3101表 報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成12年23週

	急性灰白髄炎		ジフテリア		腸管出血性大腸菌感染症		アメーバ赤痢		エキノコックス症		黄熱		オウム病		回歸熱		ウイルス性肝炎	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	-	1	-	1	58	527	5	142	-	6	-	-	-	6	-	-	14	474
北海道	-	-	-	-	1	20	-	2	-	5	-	-	-	-	-	-	-	6
青森県	-	-	-	-	1	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
岩手県	-	-	-	-	3	13	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8
宮城県	-	-	-	-	-	4	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7
秋田県	-	-	-	-	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
山形県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
福島県	-	-	-	-	-	1	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	2
茨城県	-	-	-	-	1	11	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
栃木県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
群馬県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	18
埼玉県	-	-	-	-	-	10	-	2	-	-	-	-	-	1	-	-	-	5
千葉県	-	-	-	-	1	17	1	6	-	-	-	-	-	1	-	-	-	8
東京都	-	-	-	-	6	39	-	41	-	-	-	-	-	1	-	-	-	56
神奈川県	-	-	-	-	1	24	-	11	-	-	-	-	-	-	-	-	1	14
新潟県	-	-	-	-	-	4	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
富山県	-	-	-	-	1	20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
石川県	-	-	-	-	2	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	18
福井県	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6
長野県	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	4
岐阜県	-	-	-	-	1	5	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10
静岡県	-	-	-	-	1	10	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	18
愛知県	-	-	-	-	4	30	1	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14
三重県	-	-	-	-	2	8	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
滋賀県	-	-	-	-	-	4	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
京都府	-	-	-	-	-	9	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	2	19
大阪府	-	-	-	-	6	50	2	26	-	-	-	-	-	1	-	-	2	53
兵庫県	-	-	-	-	4	34	1	14	-	-	-	-	-	-	-	-	4	55
奈良県	-	-	-	-	-	8	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7
和歌山県	-	-	-	-	-	17	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
鳥取県	-	-	-	-	-	3	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	9	9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	3	13	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	19
広島県	-	-	-	-	1	11	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7
山口県	-	-	-	-	-	9	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
徳島県	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	28
香川県	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9
愛媛県	-	-	-	-	-	4	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	12
高知県	-	-	-	-	-	5	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6
福岡県	-	-	-	-	5	50	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	2	14
佐賀県	-	-	-	-	-	8	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	1	18	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
熊本県	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8
大分県	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
宮崎県	-	1	-	-	2	11	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
鹿児島県	-	-	-	-	1	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6
沖縄県	-	-	-	-	-	12	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

第3101表 報告数・累積報告数，疾病・都道府県別

平成12年23週

	Q 熱		狂 犬 病		クリプトスボルジウム症		クロイツフェルト・ヤコブ病		劇症型溶血性レンサ球菌感染症		後天性免疫不全症候群		コクシジ オイデス症		ジアルジア症		腎症候性出血熱	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	6	-	-	-	2	-	40	-	25	5	287	-	1	2	44	-	-
北海道	-	5	-	-	-	-	-	-	-	1	-	4	-	-	-	1	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	21	-	-	-	1	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	7	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	3	-	17	-	-	-	4	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	1	-	2	-	2	1	20	-	-	-	2	-	-
東京都	-	-	-	-	-	1	-	5	-	2	2	107	-	1	-	6	-	-
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	2	-	20	-	-	-	6	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	1	-	-	-	1	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	4	-	-	1	2	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	1	-	4	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	1	-	-	-	-	-	2	-	1	1	9	-	-	-	-	-	-
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	4	-	3	1	6	-	-	-	2	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	2	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	17	-	-	-	6	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	7	-	-	-	5	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	2	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-	-	1	1	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	1	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	6	-	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-



第3101表 報告数・累積報告数，疾病・都道府県別

平成12年23週

	髄膜炎菌性髄膜炎		先天性風疹症候群		炭疽		ツツガムシ病		デング熱		日本紅斑熱		日本脳炎		乳児ポツリヌス症		梅毒	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	-	8	-	-	-	-	17	159	2	4	1	4	-	-	-	-	6	332
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7
青森県	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
秋田県	-	-	-	-	-	-	7	28	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
山形県	-	-	-	-	-	-	5	11	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	2	13	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	10
千葉県	-	2	-	-	-	-	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11
東京都	-	1	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	49
神奈川県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	15
新潟県	-	-	-	-	-	-	1	17	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
石川県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
長野県	-	-	-	-	-	-	1	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	15
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	67
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	19
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	3
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1	2	-	-	-	-	-	3
鳥取県	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
島根県	-	-	-	-	-	-	-	9	-	-	-	1	-	-	-	-	-	2
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9
広島県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
山口県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	31
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
大分県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	1	-	-	-	-	-	24	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
沖縄県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

第3101表 報告数・累積報告数，疾病・都道府県別

平成12年23週

	破傷風		バンコマイシン耐性腸球菌感染症		ハンタウイルス肺症候群		Bウイルス病		ブルセラ症		発疹チフス		マラリア		ライム病		レジオネラ症	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	3	31	1	8	-	-	-	-	-	-	-	-	84	-	2	1	67	
北海道	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-	-	
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
宮城県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
山形県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
茨城県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	3	
群馬県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
埼玉県	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	1	
千葉県	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	2	
東京都	-	2	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	36	-	-	1	5	
神奈川県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	6	-	-	-	-	
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	
石川県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	
岐阜県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	
静岡県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	25	
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	4	
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	
京都府	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	
大阪府	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10	-	-	-	-	
兵庫県	1	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	3	
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
岡山県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
広島県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	2	
山口県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
香川県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	4	
愛媛県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
福岡県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	
佐賀県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
長崎県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
宮崎県	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
鹿児島県	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	

第3102表 報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別

平成12年23週

	インフルエンザ		咽頭結膜熱		A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎		感染性胃腸炎		水 痘		手足口病		伝染性紅斑		突発性発疹		百 日 咳	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総 数	124	0.03	439	0.15	5036	1.68	13353	4.46	7061	2.36	5704	1.90	1159	0.39	2966	0.99	94	0.03
北海道	6	0.03	8	0.06	204	1.41	412	2.84	292	2.01	45	0.31	62	0.43	97	0.67	-	-
青森県	5	0.08	-	-	14	0.34	93	2.27	125	3.05	23	0.56	24	0.59	23	0.56	1	0.02
岩手県	1	0.02	-	-	52	1.37	81	2.13	79	2.08	3	0.08	19	0.50	33	0.87	2	0.05
宮城県	21	0.22	8	0.14	130	2.20	496	8.41	182	3.08	14	0.24	33	0.56	71	1.20	-	-
秋田県	4	0.07	-	-	72	2.06	267	7.63	95	2.71	2	0.06	5	0.14	32	0.91	-	-
山形県	-	-	1	0.03	78	2.69	160	5.52	82	2.83	118	4.07	42	1.45	43	1.48	1	0.03
福島県	1	0.01	1	0.02	50	1.04	227	4.73	118	2.46	8	0.17	26	0.54	36	0.75	7	0.15
茨城県	11	0.10	2	0.03	133	1.85	247	3.43	122	1.69	51	0.71	22	0.31	45	0.63	-	-
栃木県	-	-	2	0.04	151	3.36	129	2.87	86	1.91	128	2.84	5	0.11	55	1.22	-	-
群馬県	-	-	3	0.05	165	2.66	177	2.85	180	2.90	401	6.47	14	0.23	50	0.81	1	0.02
埼玉県	6	0.02	35	0.22	456	2.85	788	4.92	351	2.19	299	1.87	98	0.61	183	1.14	2	0.01
千葉県	3	0.01	22	0.16	354	2.64	527	3.93	423	3.16	93	0.69	125	0.93	151	1.13	5	0.04
東京都	8	0.04	12	0.08	98	0.69	396	2.79	189	1.33	86	0.61	42	0.30	82	0.58	-	-
神奈川県	11	0.04	32	0.16	335	1.63	703	3.41	496	2.41	230	1.12	166	0.81	246	1.19	6	0.03
新潟県	2	0.02	14	0.23	175	2.92	339	5.65	190	3.17	9	0.15	59	0.98	61	1.02	3	0.05
富山県	-	-	2	0.07	46	1.59	140	4.83	59	2.03	5	0.17	6	0.21	33	1.14	-	-
石川県	-	-	7	0.24	30	1.03	179	6.17	79	2.72	43	1.48	2	0.07	24	0.83	-	-
福井県	-	-	-	-	70	3.18	201	9.14	45	2.05	10	0.45	-	-	30	1.36	-	-
山梨県	10	0.24	-	-	34	1.36	67	2.68	57	2.28	3	0.12	17	0.68	14	0.56	-	-
長野県	-	-	2	0.04	81	1.59	268	5.25	143	2.80	11	0.22	34	0.67	60	1.18	2	0.04
岐阜県	7	0.08	6	0.11	79	1.49	157	2.96	167	3.15	21	0.40	10	0.19	32	0.60	1	0.02
静岡県	-	-	23	0.27	193	2.24	415	4.83	202	2.35	45	0.52	20	0.23	113	1.31	4	0.05
愛知県	-	-	16	0.09	339	1.86	732	4.02	387	2.13	54	0.30	92	0.51	183	1.01	6	0.03
三重県	3	0.04	1	0.02	52	1.16	331	7.36	147	3.27	78	1.73	6	0.13	67	1.49	1	0.02
滋賀県	-	-	-	-	33	1.06	85	2.74	57	1.84	25	0.81	-	-	24	0.77	1	0.03
京都府	3	0.02	2	0.03	70	0.92	372	4.89	154	2.03	45	0.59	8	0.11	74	0.97	1	0.01
大阪府	1	0.00	28	0.15	203	1.07	644	3.41	337	1.78	539	2.85	24	0.13	158	0.84	6	0.03
兵庫県	2	0.01	51	0.40	194	1.52	827	6.46	352	2.75	170	1.33	25	0.20	115	0.90	5	0.04
奈良県	-	-	1	0.03	57	1.63	167	4.77	67	1.91	225	6.43	2	0.06	32	0.91	1	0.03
和歌山県	-	-	17	0.55	28	0.90	141	4.55	69	2.23	121	3.90	7	0.23	32	1.03	1	0.03
鳥取県	-	-	3	0.16	117	6.16	190	10.00	52	2.74	24	1.26	6	0.32	22	1.16	-	-
島根県	-	-	4	0.17	26	1.13	108	4.70	42	1.83	-	-	1	0.04	12	0.52	2	0.09
岡山県	-	-	19	0.35	83	1.54	260	4.81	97	1.80	14	0.26	7	0.13	50	0.93	6	0.11
広島県	2	0.02	30	0.40	67	0.89	323	4.31	174	2.32	76	1.01	5	0.07	69	0.92	2	0.03
山口県	-	-	10	0.20	104	2.12	260	5.31	131	2.67	56	1.14	6	0.12	53	1.08	-	-
徳島県	-	-	-	-	11	0.48	113	4.91	56	2.43	18	0.78	2	0.09	32	1.39	1	0.04
香川県	-	-	3	0.09	37	1.16	137	4.28	54	1.69	8	0.25	9	0.28	32	1.00	-	-
愛媛県	-	-	32	0.82	61	1.56	288	7.38	79	2.03	100	2.56	7	0.18	43	1.10	1	0.03
高知県	-	-	2	0.06	45	1.45	124	4.00	76	2.45	10	0.32	2	0.06	21	0.68	7	0.23
福岡県	1	0.01	7	0.09	96	1.22	559	7.08	249	3.15	497	6.29	28	0.35	120	1.52	3	0.04
佐賀県	-	-	-	-	45	1.96	76	3.30	42	1.83	316	13.74	12	0.52	39	1.70	-	-
長崎県	1	0.01	2	0.05	25	0.57	157	3.57	120	2.73	161	3.66	3	0.07	42	0.95	1	0.02
熊本県	-	-	3	0.06	53	1.08	165	3.37	169	3.45	999	20.39	12	0.24	65	1.33	3	0.06
大分県	1	0.02	9	0.25	76	2.11	244	6.78	131	3.64	71	1.97	37	1.03	50	1.39	3	0.08
宮崎県	2	0.03	8	0.22	125	3.38	272	7.35	69	1.86	46	1.24	20	0.54	48	1.30	4	0.11
鹿児島県	12	0.12	6	0.10	69	1.15	288	4.80	122	2.03	378	6.30	3	0.05	51	0.85	3	0.05
沖縄県	-	-	5	0.15	20	0.59	21	0.62	66	1.94	25	0.74	4	0.12	18	0.53	1	0.03

第3102表 報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別

平成12年23週

	風 疹		ヘルパンギーナ		麻 疹 (成人麻疹を除く)		流行性耳下腺炎		急性出血性 結膜炎		流行性角結膜炎		急性脳炎 (日本脳炎を除く)		細菌性髄膜炎		無菌性髄膜炎	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総 数	116	0.04	3197	1.07	760	0.25	2756	0.92	28	0.04	843	1.34	1	0.00	8	0.02	54	0.12
北海道	1	0.01	15	0.10	14	0.10	173	1.19	-	-	18	0.62	-	-	-	-	-	-
青森県	-	-	81	1.98	6	0.15	50	1.22	-	-	11	1.00	-	-	-	-	-	-
岩手県	2	0.05	47	1.24	12	0.32	23	0.61	-	-	10	0.83	-	-	-	-	-	-
宮城県	1	0.02	67	1.14	7	0.12	14	0.24	1	0.09	15	1.36	-	-	-	-	-	-
秋田県	2	0.06	37	1.06	-	-	16	0.46	-	-	4	0.57	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	2	0.07	-	-	6	0.21	-	-	4	0.50	-	-	-	-	1	0.11
福島県	1	0.02	45	0.94	-	-	7	0.15	1	0.08	7	0.58	-	-	-	-	-	-
茨城県	5	0.07	68	0.94	26	0.36	28	0.39	8	0.50	72	4.50	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	76	1.69	32	0.71	12	0.27	-	-	31	2.58	-	-	-	-	3	0.50
群馬県	2	0.03	119	1.92	2	0.03	164	2.65	-	-	26	1.86	-	-	-	-	1	0.10
埼玉県	7	0.04	273	1.71	27	0.17	231	1.44	-	-	55	1.53	-	-	-	-	-	-
千葉県	27	0.20	278	2.07	79	0.59	151	1.13	2	0.06	54	1.59	-	-	-	-	2	0.15
東京都	5	0.04	153	1.08	15	0.11	79	0.56	-	-	27	1.93	-	-	-	-	2	0.08
神奈川県	6	0.03	144	0.70	31	0.15	233	1.13	1	0.02	80	1.90	-	-	-	-	-	-
新潟県	-	-	64	1.07	1	0.02	42	0.70	-	-	2	0.22	1	0.08	-	-	2	0.15
富山県	-	-	9	0.31	2	0.07	5	0.17	-	-	3	0.43	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	25	0.86	3	0.10	3	0.10	-	-	2	0.29	-	-	-	-	-	-
福井県	1	0.05	26	1.18	5	0.23	11	0.50	-	-	-	-	-	-	1	0.17	1	0.17
山梨県	-	-	3	0.12	4	0.16	1	0.04	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	19	0.37	5	0.10	19	0.37	-	-	16	1.60	-	-	-	-	-	-
岐阜県	2	0.04	43	0.81	21	0.40	38	0.72	1	0.09	8	0.73	-	-	-	-	-	-
静岡県	3	0.03	128	1.49	8	0.09	176	2.05	-	-	24	1.14	-	-	-	-	1	0.11
愛知県	6	0.03	298	1.64	30	0.16	174	0.96	3	0.09	58	1.71	-	-	-	-	1	0.08
三重県	2	0.04	18	0.40	5	0.11	54	1.20	-	-	6	0.50	-	-	-	-	8	0.89
滋賀県	-	-	4	0.13	22	0.71	17	0.55	-	-	8	1.14	-	-	4	0.57	1	0.14
京都府	2	0.03	21	0.28	1	0.01	30	0.39	-	-	16	0.89	-	-	-	-	-	-
大阪府	8	0.04	126	0.67	188	0.99	129	0.68	3	0.06	37	0.71	-	-	-	-	-	-
兵庫県	3	0.02	85	0.66	36	0.28	160	1.25	1	0.03	40	1.14	-	-	-	-	1	0.07
奈良県	1	0.03	11	0.31	33	0.94	25	0.71	1	0.11	22	2.44	-	-	-	-	2	0.33
和歌山県	1	0.03	8	0.26	17	0.55	7	0.23	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	50	2.63	-	-	14	0.74	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	3	0.13	1	0.04	27	1.17	-	-	4	1.33	-	-	-	-	-	-
岡山県	1	0.02	61	1.13	35	0.65	44	0.81	-	-	14	1.17	-	-	-	-	-	-
広島県	2	0.03	74	0.99	9	0.12	84	1.12	1	0.05	41	2.05	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	59	1.20	-	-	108	2.20	-	-	10	1.11	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	20	0.87	9	0.39	3	0.13	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	3	0.09	40	1.25	30	0.94	17	0.53	-	-	3	1.00	-	-	-	-	-	-
愛媛県	1	0.03	46	1.18	4	0.10	18	0.46	1	0.14	20	2.86	-	-	-	-	4	0.67
高知県	4	0.13	35	1.13	9	0.29	38	1.23	-	-	4	1.33	-	-	-	-	-	-
福岡県	1	0.01	192	2.43	10	0.13	79	1.00	1	0.06	17	0.94	-	-	-	-	1	0.07
佐賀県	-	-	56	2.43	-	-	37	1.61	-	-	4	1.00	-	-	-	-	2	0.33
長崎県	-	-	25	0.57	1	0.02	22	0.50	3	0.38	10	1.25	-	-	-	-	-	-
熊本県	5	0.10	81	1.65	2	0.04	91	1.86	-	-	14	1.56	-	-	3	0.20	17	1.13
大分県	1	0.03	95	2.64	12	0.33	18	0.50	-	-	7	1.40	-	-	-	-	-	-
宮崎県	8	0.22	40	1.08	-	-	46	1.24	-	-	10	2.50	-	-	-	-	1	0.14
鹿児島県	-	-	22	0.37	4	0.07	25	0.42	-	-	6	1.20	-	-	-	-	-	-
沖縄県	2	0.06	5	0.15	2	0.06	7	0.21	-	-	23	2.30	-	-	-	-	3	0.43

第3102表 報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別 平成12年23週

	マイコプラズマ肺炎		クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		成人麻疹	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総数	32	0.07	3	0.01	25	0.05
北海道	1	0.04	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-
岩手県	1	0.05	-	-	2	0.10
宮城県	8	0.67	-	-	1	0.08
秋田県	-	-	-	-	-	-
山形県	1	0.11	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-
千葉県	-	-	-	-	1	0.08
東京都	-	-	-	-	13	0.52
神奈川県	3	0.27	-	-	1	0.09
新潟県	2	0.15	-	-	-	-
富山県	-	-	1	0.20	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-
福井県	1	0.17	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	2	0.18
岐阜県	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	-
愛知県	7	0.54	-	-	-	-
三重県	2	0.22	-	-	2	0.22
滋賀県	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-
岡山県	1	0.20	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	1	0.11	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-
愛媛県	1	0.17	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-
大分県	1	0.13	-	-	3	0.38
宮崎県	1	0.14	1	0.14	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-
沖縄県	2	0.29	-	-	-	-

感染症週報 第2巻、第23号 平成12年6月23日発行  
 発行：国立感染症研究所  
 厚生省保健医療局結核感染症課  
 厚生省大臣官房統計情報部  
 事務局：国立感染症研究所感染症情報センター  
 〒162-8640東京都新宿区戸山1-23-1  
 TEL：03-5285-1111  
 FAX：03-5285-1129  
 URL：http://idsc.nih.go.jp/index-j.html  
 <国立感染症研究所 感染症情報センター>  
 http://www.mhw.go.jp/  
 <厚生省>  
 http://www.narita-airport.or.jp/quarantine/  
 <成田空港検疫所>

本週報は、感染症新法に基づくものであり、全国の医療従事者、定点医療機関、保健所、保健所設置市、特別区、都道府県、地方衛生研究所、検疫所の皆様のご協力を得て、国立感染症研究所感染症情報センターにおいて編集したものです。

また、本週報は速報性を重視しておりますので、今後調査などの結果に応じて、若干の変更が生じることがありますが、その場合には週報上にて訂正させていただきます。

なお、週報の内容について、学術的研究、あるいは公衆衛生活動にかかわる業務以外の目的においては、無断転載を禁じます。